

基準 2 教育組織（実施体制）

（1）観点ごとの分析

観点 2-1-①： 学科の構成が、教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

学科の構成は、「Ⅱ 目的」の下、設立当初の昭和37年に電気工学科の1学科から出発し、昭和38年に機械工学科を新設し2学科体制となった（資料 2-1-①-1：学則第1章目的及び使命）。昭和63年に情報工学分野の発達に伴い、コンピュータ関連の現場技術者を育成すべく、電気工学科を電気電子工学コースと情報工学コースの2コース制とした。平成15年に、コンピュータの更なる進化やインターネットの急速な発達など、情報化社会の現場技術者を育成すべく、電気工学科の電気電子工学コースを母体に電気情報工学科を、情報工学コースを母体に国際コミュニケーション情報工学科を設置し3学科体制とした。その後も産業構造の変化や、中学校の視点からの学科名称の分かり易さなどを考慮し、平成21年に電気情報工学科を電気電子工学科に、国際コミュニケーション情報工学科をグローバル情報工学科に名称変更を行い、現在、電気電子工学科、機械工学科、グローバル情報工学科の3学科の構成としている（資料 2-1-①-2：学則第3章組織及び定員、資料 2-1-①-3：沿革）。

資料 2-1-①-1

学則 第1章目的及び使命

第1章 目的及び使命

- 第1条** 金沢工業高等専門学校(以下「本校」という。)は、学校法人金沢工業大学建学綱領に定める建学の精神に則り、教育基本法及び学校教育法に従い、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とし、その目的を実現するため教育を行い、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与することを使命とする。
- 2 本校は、前項の目的及び使命を達成するため、教育研究活動等の状況について点検及び評価を行うことに努めるものとする。
- 3 前項に関し、必要な事項は、別に定める。

(出典 学生便覧 2012 P. 34)

資料 2-1-①-2

学則 第3章組織及び定員

第3章 組織及び定員

第6条 本校に次の学科を置く。

- 電気電子工学科
- 機械工学科
- グローバル情報工学科

第6条の2 電気電子工学科は、電気・電子工学及び情報技術分野に関する専門的能力を有する実践的技術者の養成を目的とする。

- 2 機械工学科は、機械工学分野に関する専門的能力を有する実践的技術者の養成を目的とする。
- 3 グローバル情報工学科は、情報技術分野に関する専門的能力及び英語による国際的なコミュニケーション能力を有する実践的技術者の養成を目的とする。

(出典 学生便覧 2012 P. 34)

資料 2-1-①-3

沿革

昭和32年 8月 1日	北陸電波学校開校	昭和63年 4月 1日	電気工学科1学級増
昭和33年 4月 1日	北陸電波専門学校開校	平成 2年 4月26日	第2体育館完成
昭和34年 4月 1日	北陸電波高等学校開校	平成 3年 4月 1日	金沢市久安2丁目270番地にて新校舎完成
昭和37年 4月 1日	金沢工業高等専門学校開校・電気工学科設置	平成 5年 7月 8日	夢考房開設
昭和38年 4月 1日	機械工学科増設	平成 7年 5月23日	シンガポール理工学院と協力協定調印
昭和38年 9月29日	体育館完成	平成 7年 7月12日	米国セントマイケルズ大学と協力協定覚書調印
昭和40年 4月 1日	金沢工業大学開学	平成 8年 4月 1日	マルチメディア考案開設
昭和42年10月18日	第2情報処主任技術者免状交付申請校に認定	平成 9年 4月 1日	創造技術教育研究所開設
昭和43年 3月 1日	第2級無線技術士予備試験の免状校に認定	平成10年12月14日	池の平セミナーハウス開設
昭和43年11月 5日	能登半島国立公園に穴水湾自然学苑開設	平成14年12月17日	ニュージーランドオタゴ・ポリテクニクと協力協定覚書調印
昭和44年 1月16日	情報処理センター(現 情報処理サービスセンター)設置	平成15年 4月 1日	電気工学科を電気情報工学科に名称変更
昭和44年 4月 1日	教育工学研究所(現 情報処理サービスセンター)設置	平成15年 4月 1日	国際コミュニケーション情報工学科増設
昭和48年 9月21日	鹿が丘診療所開設	平成16年 2月 7日	ニュージーランドオタゴ・ポリテクニクと協力協定調印
昭和52年 5月19日	天治自然学苑開設	平成18年 4月 1日	地域連携教育センター開設
昭和57年 6月 1日	ライブラリーセンター開館	平成21年 4月 1日	電気情報工学科を電気電子工学科に名称変更
昭和62年 8月13日	工事担任者試験の一部免状校に認定	平成21年 4月 1日	国際コミュニケーション情報工学科をグローバル情報工学科に名称変更

(出典 学園資料)

継続して「Ⅱ 目的」に基づいた見直しを行い、科学技術の動向とグローバル化を踏まえて学科構成を見直し、その妥当性を確認し、学科ごとに学習・教育目標と卒業時に身につけるべき学力や資質・能力を定めている(資料2-1-①-4:三位一体の教育改革を目指して、資料2-1-①-5:電気電子工学科のカリキュラム全体像、資料2-1-①-6:機械工学科のカリキュラム全体像、資料2-1-①-7:グローバル情報工学科のカリキュラム全体像)。

三位一体の教育改革を目指して

三位一体の教育改革を目指して

新しい年の高専 校長 山田 弘文

あけましておめでとうございます。

皆様方が、希望に満ちた新年をお迎えになられましたことを、心よりお喜び申し上げます。併せて、金沢高専が旧年中に賜りましたご指導とご愛顧に対し、厚くお礼を申し上げます。

旦月会報 2009. 1. 457号

(8)



「三位一体の教育改革を目指す」と
抱負を語る山田弘文校長

考えています。

以下、平成21年度の高専の教育改革の概要を述べ、皆様のご理解、ご指導とご支援をお願い申し上げます。

その第1は、加速するグローバル化への対応と、学科の特徴を表すために実施する、専門学科の名称変更ともものづくり教育の改善であります。

(9)

さて、先ほどのお話にもありましたように、最近の世相は教育界にとって、まさにピンチであります。しかし、一方では中学生の数の減少がほぼ行き止まり傾向にあること、ゆとり政策の見直し、義務教育における数理・英語教育内容の充実など、徐々にではありますが希望もてる機運も起こり始めました。金沢高専は、この時期を切っ掛けととらえ、さらなる教育改革を推進することを

従来の電子情報工学科は、電気電子工学科へと名称を変更します。理論と体験を組み合わせたわかりやすい教育の実現と、制御を中心としたものづくり教育を開始します。機械工学科は、名称こそ変わりませんが、全般の近代化ともものづくり教育の一層の充実を目指します。国際コミュニケーション情報工学科はグローバル情報工学科に生まれ変わり、一貫性あるものづくり教育を実現します。同時に、昨年の英語コンテスト入賞にもみられたように、英語と専門との共存を促進し、グローバルに活躍できる学生のためのカリキュラムを開始します。

第2の改革は、ものづくり教育にエンジニアリングデザインおよびエンジニアリングマネジメントの考え方と科目を導入することです。加速される技術のグローバル化時代にあっては、グループの力が重要となることは疑う余地もありません。本校卒業生が、コンセプト、アイデア、製品化およびオペレーションに至るエンジニアリングデザインとその管理の概要を経験することは、現代の技術者として、必須事項となると考えるからであります。

(出典 旦月会報 平成21年1月号 P.8-9)

電気電子工学科のカリキュラム全体像

学年・目標	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次
行動目標 1. Hardness of heart 2. Self-Confidence 3. Team Spirit 4. Self-Improvement 5. Responsibility 6. Self-Expression 7. Energy 8. Creativity 9. Leadership 10. Self-Management 11. Self-Reflection	人間と自然 I (A) 保健体育 I (A) 英語 I (A) 数学 I (A)	人間と自然 II (A) 保健体育 II (A) 英語 II (A) 数学 II (A)	人間と自然 III (A) 保健体育 III (A) 英語 III (A) 数学 III (A)	インターネット I (A, B) キャリアデザイン I (A)	インターネット II (A, B) キャリアデザイン II (A)
建学の精神 人間形成 技術革新 産学協同	人間性 ① 専門知識・技能を身に付け、自己研鑽を続ける。 ② 社会貢献に努め、社会の発展に貢献する。	創造性 ① 専門知識・技能を身に付け、自己研鑽を続ける。 ② 社会貢献に努め、社会の発展に貢献する。	国際性 ① 専門知識・技能を身に付け、自己研鑽を続ける。 ② 社会貢献に努め、社会の発展に貢献する。	基礎力 ① 専門知識・技能を身に付け、自己研鑽を続ける。 ② 社会貢献に努め、社会の発展に貢献する。	専門力 ① 専門知識・技能を身に付け、自己研鑽を続ける。 ② 社会貢献に努め、社会の発展に貢献する。
教育目標 21世紀を担う、 心豊かで、 創造性にあふれた エンジニアの育成	文化・芸術・道徳 I (B) 総合英語 I (C) 総合英語 II (C) 英語とコンピュータ I (C) 基礎数学 I (D) 基礎数学 II (D) 基礎数学 III (D) 物理・化学 I (D) 物理・化学 II (D) 情報工学 I (E, B) コンピュータ I (E, B)	英語 I (C) 総合英語 II (C) 英語とコンピュータ II (C) 基礎数学 II (D) 基礎数学 III (D) 物理・化学 II (D) 情報工学 II (E, B) コンピュータ II (E, B)	英語 II (C) 総合英語 III (C) 英語とコンピュータ III (C) 基礎数学 III (D) 基礎数学 IV (D) 物理・化学 III (D) 情報工学 III (E, B) コンピュータ III (E, B)	英語 III (C) 総合英語 IV (C) 英語とコンピュータ IV (C) 基礎数学 IV (D) 基礎数学 V (D) 物理・化学 IV (D) 情報工学 IV (E, B) コンピュータ IV (E, B)	英語 IV (C) 総合英語 V (C) 英語とコンピュータ V (C) 基礎数学 V (D) 基礎数学 VI (D) 物理・化学 V (D) 情報工学 V (E, B) コンピュータ V (E, B)

(出典 学生便覧 2012 P.18-19)

機械工学科のカリキュラム全体像

理念・目標	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次
<p>図7 機械工学科のカリキュラム全体像</p> <p>卒業時に身につけるべき能力・素養</p> <p>1. 自ら学ぶ能力、主体的に行動する能力がある。 2. 自ら考え、主体的に行動する能力がある。 3. 自ら考え、主体的に行動する能力がある。</p>	<p>人間性</p> <p>人間と動物Ⅰ(A) 身体性Ⅰ(A) 道徳Ⅰ(A) 歴史Ⅰ(A)</p>	<p>身体性Ⅱ(A) 道徳Ⅱ(A) 歴史Ⅱ(A)</p>	<p>人間と動物Ⅱ(A) 身体性Ⅲ(A) 道徳Ⅲ(A) 歴史Ⅲ(A)</p>	<p>インターンシップⅠ(B, E) キャリアデザイン(A)</p>	<p>A席と動物Ⅲ(A)</p>
<p>行動目標</p> <p>4. Autonomy of Agent 5. Professionalism 6. Integrity 7. Diversity 8. Creativity 9. Leadership 10. Self-Organization</p>	<p>人間性</p> <p>人間と動物Ⅰ(A) 身体性Ⅰ(A) 道徳Ⅰ(A) 歴史Ⅰ(A)</p>	<p>身体性Ⅱ(A) 道徳Ⅱ(A) 歴史Ⅱ(A)</p>	<p>人間と動物Ⅱ(A) 身体性Ⅲ(A) 道徳Ⅲ(A) 歴史Ⅲ(A)</p>	<p>インターンシップⅠ(B, E) キャリアデザイン(A)</p>	<p>A席と動物Ⅲ(A)</p>
<p>建学の精神</p> <p>人間形成 技術革新 産学協同</p>	<p>創造性</p> <p>創造性Ⅰ(B, E) 文化・芸術・国際Ⅰ(B)</p>	<p>創造性Ⅱ(B, E) 文化・芸術・国際Ⅱ(B)</p>	<p>創造性Ⅲ(B, E) 文化・芸術・国際Ⅲ(B)</p>	<p>創造性Ⅳ(B, E) 文化・芸術・国際Ⅳ(B)</p>	<p>創造性Ⅴ(B, E) 文化・芸術・国際Ⅴ(B)</p>
<p>教育目標</p> <p>21世紀を担う、 心豊かで、 創造性にあふれた エンジニアの育成</p>	<p>国際性</p> <p>英語Ⅰ(C) 英語Ⅱ(C) 英語Ⅲ(C) 英語Ⅳ(C)</p>	<p>英語Ⅰ(C) 英語Ⅱ(C) 英語Ⅲ(C) 英語Ⅳ(C)</p>	<p>英語Ⅰ(C) 英語Ⅱ(C) 英語Ⅲ(C) 英語Ⅳ(C)</p>	<p>英語Ⅰ(C) 英語Ⅱ(C) 英語Ⅲ(C) 英語Ⅳ(C)</p>	<p>英語Ⅰ(C) 英語Ⅱ(C) 英語Ⅲ(C) 英語Ⅳ(C)</p>
<p>基礎力</p> <p>基礎力Ⅰ(D) 基礎力Ⅱ(D) 基礎力Ⅲ(D) 基礎力Ⅳ(D)</p>	<p>基礎力Ⅰ(D) 基礎力Ⅱ(D) 基礎力Ⅲ(D) 基礎力Ⅳ(D)</p>	<p>基礎力Ⅰ(D) 基礎力Ⅱ(D) 基礎力Ⅲ(D) 基礎力Ⅳ(D)</p>	<p>基礎力Ⅰ(D) 基礎力Ⅱ(D) 基礎力Ⅲ(D) 基礎力Ⅳ(D)</p>	<p>基礎力Ⅰ(D) 基礎力Ⅱ(D) 基礎力Ⅲ(D) 基礎力Ⅳ(D)</p>	<p>基礎力Ⅰ(D) 基礎力Ⅱ(D) 基礎力Ⅲ(D) 基礎力Ⅳ(D)</p>
<p>専門力</p> <p>専門力Ⅰ(E, B) 専門力Ⅱ(E, B) 専門力Ⅲ(E, B) 専門力Ⅳ(E, B) 専門力Ⅴ(E, B)</p>	<p>専門力Ⅰ(E, B) 専門力Ⅱ(E, B) 専門力Ⅲ(E, B) 専門力Ⅳ(E, B) 専門力Ⅴ(E, B)</p>	<p>専門力Ⅰ(E, B) 専門力Ⅱ(E, B) 専門力Ⅲ(E, B) 専門力Ⅳ(E, B) 専門力Ⅴ(E, B)</p>	<p>専門力Ⅰ(E, B) 専門力Ⅱ(E, B) 専門力Ⅲ(E, B) 専門力Ⅳ(E, B) 専門力Ⅴ(E, B)</p>	<p>専門力Ⅰ(E, B) 専門力Ⅱ(E, B) 専門力Ⅲ(E, B) 専門力Ⅳ(E, B) 専門力Ⅴ(E, B)</p>	<p>専門力Ⅰ(E, B) 専門力Ⅱ(E, B) 専門力Ⅲ(E, B) 専門力Ⅳ(E, B) 専門力Ⅴ(E, B)</p>

グローバル情報工学科のカリキュラム全体像

学年	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次
理念・目標 卒業時に身につけるべき力や資質・能力 ① 創発力 ② 問題解決力 ③ 協働力 ④ 国際力 ⑤ 持続力 ⑥ 責任感 ⑦ 誠実 ⑧ 意欲 ⑨ 責任感 ⑩ 誠実 ⑪ 意欲	人間性 人間と自然 (A) 身体健康 (A) 言語 (A) 歴史 (A)	人間と自然 (A) 身体健康 (A) 言語 (A) 歴史 (A)	人間と自然 (A) 身体健康 (A) 言語 (A) 歴史 (A)	インターネット (A, E) ネットワーク (A)	インターネット (A, E) ネットワーク (A)
	人間性 人間と自然 (A) 身体健康 (A) 言語 (A) 歴史 (A)	人間と自然 (A) 身体健康 (A) 言語 (A) 歴史 (A)	人間と自然 (A) 身体健康 (A) 言語 (A) 歴史 (A)	インターネット (A, E) ネットワーク (A)	インターネット (A, E) ネットワーク (A)
	創造性 本邦の伝統・文化を継承し、その発展に貢献する。 ① 創造力 ② 問題解決力 ③ 協働力 ④ 国際力 ⑤ 持続力 ⑥ 責任感 ⑦ 誠実 ⑧ 意欲 ⑨ 責任感 ⑩ 誠実 ⑪ 意欲	人間と自然 (A) 身体健康 (A) 言語 (A) 歴史 (A)	人間と自然 (A) 身体健康 (A) 言語 (A) 歴史 (A)	インターネット (A, E) ネットワーク (A)	インターネット (A, E) ネットワーク (A)
	国際性 国際社会で活躍する能力を身につける。 ① 創造力 ② 問題解決力 ③ 協働力 ④ 国際力 ⑤ 持続力 ⑥ 責任感 ⑦ 誠実 ⑧ 意欲 ⑨ 責任感 ⑩ 誠実 ⑪ 意欲	人間と自然 (A) 身体健康 (A) 言語 (A) 歴史 (A)	人間と自然 (A) 身体健康 (A) 言語 (A) 歴史 (A)	インターネット (A, E) ネットワーク (A)	インターネット (A, E) ネットワーク (A)
	基礎力 専門知識・技能を習得し、社会で活躍する能力を身につける。 ① 創造力 ② 問題解決力 ③ 協働力 ④ 国際力 ⑤ 持続力 ⑥ 責任感 ⑦ 誠実 ⑧ 意欲 ⑨ 責任感 ⑩ 誠実 ⑪ 意欲	人間と自然 (A) 身体健康 (A) 言語 (A) 歴史 (A)	人間と自然 (A) 身体健康 (A) 言語 (A) 歴史 (A)	インターネット (A, E) ネットワーク (A)	インターネット (A, E) ネットワーク (A)
専門力 専門知識・技能を習得し、社会で活躍する能力を身につける。 ① 創造力 ② 問題解決力 ③ 協働力 ④ 国際力 ⑤ 持続力 ⑥ 責任感 ⑦ 誠実 ⑧ 意欲 ⑨ 責任感 ⑩ 誠実 ⑪ 意欲	人間と自然 (A) 身体健康 (A) 言語 (A) 歴史 (A)	人間と自然 (A) 身体健康 (A) 言語 (A) 歴史 (A)	インターネット (A, E) ネットワーク (A)	インターネット (A, E) ネットワーク (A)	

(分析結果とその根拠理由)

本校の学科は、「Ⅱ 目的」を基盤として養成すべき人材像を明確にした各学科の目的と、学習・教育目標を基に、時代の要請にも適合した3学科で構成している。各学科では、「Ⅱ 目的」に適合する各々の学科の目的と学習・教育目標及び卒業時に身につけるべき学力や資質に沿った教育を実施しており、学科の構成は、「Ⅱ 目的」を達成する上で適切なものとなっている。

観点 2-1-②： 専攻科を設置している場合には、専攻科の構成が、教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

(観点に係る状況)

該当無し。

(分析結果とその根拠理由)

該当無し。

観点 2-1-③： 全学的なセンター等を設置している場合には、それらが教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

(観点に係る状況)

「Ⅱ 目的」を達成するための全学的なセンターとして、本校に地域連携教育センター、創造技術教育研究所を設置している。また学園は本校と大学の学習を支援するために教育支援機構を設置し、大学と同等の教育活動支援、学生の学習活動の支援を行っている。教育支援機構にはライブラリーセンター、情報処理サービスセンター、自己開発センター、夢考房などを設置している。

1) 地域連携教育センター

地域連携教育センターは、学生が倫理観や社会貢献の精神を涵養し、地域社会の活性化に必要な専門知識や技術の理解と修得に努めることにより、地域社会との交流を通じて自己啓発、自己研鑽の体得に資することを目的にしている(資料 2-1-③-1：地域連携教育センター)。具体的には地域連携教育センターに登録した教育補助員(SA)が、地域教育支援活動として小中学校への出前授業及び中学校の成績不振者向けの土曜補習講座や、本校の下級生への学習支援の教育補助活動を行っている(資料 2-1-③-2：金沢工業高等専門学校SA規程)。これらの活動はSA33名で延べ198時間の活動実績をあげている(資料：2-1-③-3：平成23年度地域連携教育センターSA活動実績、2-1-③-4)：地域連携教育センター)。

地域連携教育センター



金沢高専と地域社会との連携協力の下に、地域連携教育センター(Center for Community-Arranged Education「CCAЕ」)を開設。学生が倫理観や社会貢献の精神を涵養し、地域社会の活性に必要な専門知識や技術の理解と修得に努めることにより、地域社会との交わりを通じて自己啓発、自己研鑽の体得に資することを目的とする。

開設時間

月曜日～金曜日……8：40～19：00

活動内容

- ①個人の能力を進展するための修学指導
本校学生の基礎学力の向上を目指して、毎日放課後に数学・物理・化学の分野を中心として、マンツーマンで指導を実施する。
月曜日～金曜日(16時～19時)
- ②地域教育支援活動
 - ・小・中・高校などに対する出前授業の実施、総合学習教育協力など。
 - ・小・中・高校などに対する理数教育協力(サイエンスパートナーシッププロジェクト「SPP」)。
 - ・学校支援地域本部事業に協力して、地域の小・中学校の教育力向上のため学生を派遣する活動。
- ③広報に関する支援活動
- ④企業との連携活動

地域と共に学ぶ。
地域と共に進む。

(出典 学生便覧 2012 P.134)

金沢工業高等専門学校 SA 規程

○金沢工業高等専門学校SA規程

(平成 23 年4月1日施行)

(目的)

第1条 この規程は、金沢工業高等専門学校(以下「本校」という。)の教育を一層充実させ、及び本校学生の教育訓練に資するため、本校学生が教育補助員(以下「SA」という。)として教育補助業務に従事することについて、必要な事項を定めることを目的とする。

(教育補助業務)

第2条 教育補助業務とは、校内における授業科目等を補助する業務、及び校外における指定された業務を補助する業務をいう。

(SAの資格)

第3条 SAは、教育補助業務に従事した場合も勉学に支障をきたさないと判断される者であって、次の各号のいずれかに該当するものでなければならない。

- (1) 5年次生のうち、推薦による大学編入学試験の出願資格を有する者
- (2) 特定の科目について優れた成績を修め校長表彰を受けた者、又は校長が認めた者

(SAの採用手続)

第4条 SAの採用人数は、年度ごとに校長が定める。

- 2 SAを希望する者は、地域連携委員会に対し教育補助員(SA)申請書を提出しなければならない。
- 3 SAの採用は、地域連携委員会の了承を得たSA候補者を各学科長が推薦し、校長の承認を経て、学校法人金沢工業大学理事長(以下「理事長」という。)が決定する。

(契約)

第5条 SAの採用が決定したときは、理事長を甲とし、SAを乙とする契約書を交わすものとする。

(業務)

第6条 SAは、担当教員の指導・監督のもとに教育補助業務を行うものとする。

- 2 SAが従事する教育補助業務は、契約書をもって定める。

(採用期間)

第7条 SAの採用期間は、前学期又は後学期、若しくは1年以内の期間とする。

- 2 SAの採用時期は、原則として前学期又は後学期の学期始めとし、学期ごとに期日を定めて契約するものとする。

(給与)

第8条 SAの給与は、時間給とし、その額は契約書をもって定める。

(契約の解除)

第9条 理事長は、SAが、第3条に定める資格を満たさなくなったとき、又は教育補助業務に不適格であると認められるときは、SAの契約を解除することができる。

(服務)

第10条 SAの服務については、必要に応じて、学校法人金沢工業大学就業規則第3章の規定を適用する。

附 則

この規程は、平成 23 年4月1日から施行する。

(出典 学校法人金沢工業大学規則集)

平成23年度地域連携教育センターSA活動実績

平成23年度SA実施集計

1. 平成23年度SA

(5月～6月)

①. 1年生の補習授業補助

D 4		11時間
#		19時間
#		10時間
#		7時間

(7月～8月)

②. 夏期休暇中の額中学校、高尾台中学校の補習授業

C 5		5時間
#		5時間
M 5		3時間
C 4		4時間
#		2時間

(9月～11月)

③. 高岡中学校、電気情報出前授業

D 5		6時間
#		6時間
#		6時間
#		6時間
C 4		6時間
T 2		6時間
G 2		6時間

④. 泉中学校、ロボット工学出前授業

M 5		3時間
#		3時間

⑤. 川北中学校 ロボット工学出前授業

M 5		3時間
#		3時間
#		3時間
#		3時間

(24/1月～3月)

⑥. 高尾台中学校、冬期土曜日数学補充授業

C 5		6時間
#		8時間
#		6時間
D 5		2時間
D 4		8時間
#		8時間
C 4		8時間
#		8時間
G 3		8時間
#		6時間
T 2		4時間

総合計 33名、延べ時間 198時間

(地域連携資料)

(出典 地域連携教育センター資料)

地域連携教育センター



地域連携教育センター

活動して5年、着実に歩む

出前授業やイベント出展などに積極的に活動

平成17年に、第三者評価として、大学学位授与機構による機関別認証評価を受審した。これをきっかけに、高等教育機関として積極的に地域との連携に取り組むことの必要性から、地域連携教育センター（略称CCE）を開設し、現在5年目に至っている。

産学協同としての企業との連携は、進路に繋がることから進路指導主事を長として、各学科長が担当するため、当センターでは、小・中学校に係る連携を主として企画立案し、実施している。そしてこれは学生募集に深く係る重要な事項であることから、中学生の体験入学、オープンキャンパス及び入試説明会などにも関係してきた。それらの活動については別の機会に紹介しているので割愛する。

本校のセンターの活動の重要なものとして「学生の教育のため」というコンセプトがある。この考え方を基に、例えばSPP（サイエンス・パートナーシッププロジェクト）では、学生がティーチングアシスタントとして、計画の立案から参画し、実行の補佐、まとめまでの過程

を、できるだけ多くの役割を担当する。そうすることで、エンジニアリングデザインを学ぶ機会にもなっている。そしてその趣旨に沿って順次進めてきている。

平成22年度、中学校の生徒に対する出前授業や総合学習教室、及び子供から大人までを対象にしたイベントの出展なども積極的に参加している。それらを以下に紹介する。

①サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト

(略称SPP)の採択事業【JST事業】

A. 課題名「君もガリレオ」

〔氏家准教授、作宮教授、TA4人〕

7月26日(月)、29日(木)、30日(金)

野々市町立布水中学校23人

B. 課題名「模型スターリングエンジンの製作を

通してエネルギーや環境問題を学ぼう」

〔天日教授、原准教授、TA4人〕

7月21日(水)、26日(月)、28日(木)

白山市立北辰中学校10人

- C. 課題名「Hands Onで数学を」
 [氏家准教授、作宮教授、TA 4人]
 11月16日(水)、17日(水)、24日(水)
 小松市立南郎中学校30人
 (このテーマは4年連続で採択され、JSTのSP
 P活動を紹介する代表的な課題として選定され、紹
 介DVDやホームページに掲載されている)

②出前授業(出前講座)

- A. 額中学校「文化講座」
 課題名「極低温の世界」
 [香林教授、中沢准教授、TA 2人]
 7月6日(火): 額中学校1年生30人
- B. 高尾台中学校「夏期サイエンス教室」
 課題名「クリーンアップ大作戦! ロボットスカベン
 チャーを作ろう」
 [伊藤教授、金井准教授、TA 2人]
 8月2日(月)、3日(火)
 : 金沢市立高尾台中学校情報科学部13人
- C. 東和中学校「サイエンス教室」
 課題名「ものづくりを通して科学技術を学ぶ体験活動」
 「紙飛行機に夢乗せて」
 [伊藤教授、TA 5人]
 9月28日(火): 加賀市立東和中学校1年生64人
- D. 東和中学校「サイエンス教室」
 課題名「ものづくりを通して科学技術を学ぶ体験活動」
 「スターリングエンジンの紹介とクリーンエ
 ネルギーや環境問題を学ぶ」
 [天日教授、TA 1人]
 11月26日(金): 加賀市立東和中学校1年生64人
- E. 北辰中学校総合学習
 課題名「環境問題を考えよう」 [今澤教授]
 10月26日(火): 白山市立北辰中学校1年生124人
- F. 泉中学校「文化祭」
 課題名「NHKロボットコンテスト出場ロボットなど」
 [伊藤教授、TA 5人]
 10月30日(土): 金沢市立泉中学校1~3年生40人
- G. 川北中学校「サイエンス教室」
 課題名「高専ロボコンとマイクロマウス」
 [伊藤教授、古屋教授、TA 4人]
 11月11日(木): 川北町立川北中学校2年生63人
- H. 額中学校
 課題名「工学・英語協同学習授業」(Collaborative
 Learning in Engineering and English)
 [セラ講師、ドゥーガン講師、ニュージーランド留学生12人]
 11月18日(木) 3年生38人
 11月25日(木) 2年生37人
 11月29日(月) 2年生38人 } 金沢市立額中学校

③イベント出展

- A. 「MEX金沢2010」 石川県産業展示館4号館
 [香林教授、南出教授、土地教授、松井教授、
 伊藤教授、古屋教授、金井准教授、小間講師、
 小坂准教授、TA14人]
 5月20日(木)、21日(金)、22日(土)
- B. 「いしかわ未来のエジソン・サマースクール」
 石川県産業展示館2号館
 課題名「極低温の世界」
 「テスラーコイルによる放電現象」
 [土地教授、香林教授、TA 2人] 7月18日(日)
- C. 「石川ものづくりトライアル」石川県技能祭
 石川県産業展示館3号館
 [南出教授、松井教授、小坂教授、香林教授、TA11人]
 10月3日(日)

サイエンス以外にも、瀧本明弘主事や山口真史助教に
 よって、ハンドボール競技の有名な選手をコーチとして
 招き、県内の中学校ハンドボール部を対象に技術セミナ
 ーや招待試合などを、年間数回開催している。

また、3年前から金沢市教育委員会の地域連携活動の
 モデルとして、高尾台中学校から講師派遣の依頼を受け、
 1月から3月の土曜日、計6回開催される「冬季の数学
 などの補充教室」に協力している。本校の学生会や有志
 の学生が10人程度参加し、地域のボランティアの人たち
 と一緒になって、勉強が分からない中学生を教えている。

この経験は学生にとっても得るものが多く、また生徒
 から、成績があがってよかったとのうれしい声が聞か
 れるなど、この活動の有用性が高く評価されている。

これらの地域連携活動は、中学校の生徒、金沢高専の
 学生が、それぞれ多くのことを学ぶ機会を得て、大変有
 効な活動であると結論づけられる。

地域に愛される高専として、しっかりとした足取りで
 前進するためには、強いリーダーシップを発揮し、新し
 い情報を発信するとともに、教職員と学生による地域連
 携活動を積極的に勤めるような地道な努力を、長く続け
 ることが大切である。そしてその成果が学生募集にも反
 映されることを実感している。

今後は新しい企画を募り、ますます進めていかなけれ
 ばならない。

(高専 香林利男)

2) 創造技術教育研究所

創造技術教育研究所は、本校の教育改善に資する研究を実施するために設置され、時代の要請に即した現場技術者を育成するための創造技術に関する教育内容と教育技法の研究、実践教育科目の研究

及び研究成果の実用化の研究、教育・研究成果の公表、教育成果物の公表を行っている（資料 2-1-③-5：創造技術教育研究所、資料 2-1-③-6：創造技術教育）。

資料 2-1-③-5

創造技術教育研究所

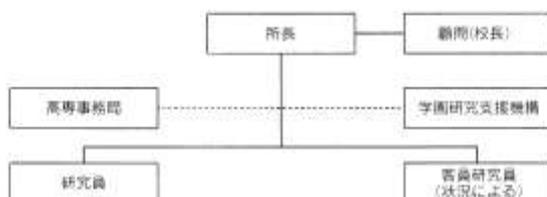


「創造技術教育研究所」は、時代の要請に即した技術者を育成するため、教育の内容や技法などに関して常に検討を重ね、教材開発やシステム開発技法などを構築するための研究活動を行っている。また、教員の教育・研究能力向上を図るため、教員の教育や各専門分野の活動に対する支援を行い、その成果をまとめた論文集を発刊したり、学生が授業において制作した成果物や各種コンテスト出場作品を一般公開するための活動を行っている。

活動内容

- ①創造技術教育(内容と技法)の研究
 - マルチメディアの活用
 - 数学教育技法
 - 教材開発
 - 将来の創造技術教育
 - その他特定命題
- ②実践教育科目の研究および研究成果の実用化の研究
 - メカトロニクスに関する研究
 - 地場産業に関する研究
 - システム開発技法に関する研究
 - 自然の有効利用・環境保全に関する研究
 - 人と技術のインターフェイスに関する研究
 - その他特定命題
- ③教育・研究成果の公表
 - 年度ごとに、研究員および本校教員の教育・研究成果をまとめた「創造技術教育」論文集を発刊し、本校教員の研究内容や研究活動、研究成果を公表する
- ④教育成果物の公表
 - 創造技術教育において学生が制作した成果物および、「プロコン」や「ロボコン」などの各種コンテストにおいて優秀な成績を収めた作品を地域連携教育センターと協力して MEX 金沢へ出展し、本校のものづくり教育の成果を公表する

教材開発やシステム開発。



(出典 学生便覧 2012 P.135)

3) 教育支援機構

教育支援機構は、本校と大学の教育の振興を図ることを目的として、高専・大学における学生の正課・課外の学習を支援している。本校においては、学科、各部会といった組織的な取組の中において、教育支援機構の各センターとの連携を図り、学生の学習支援を実施している（資料 2-1-③-7：学校法人金沢工業大学教育支援機構規程）。

資料 2-1-③-7

学校法人金沢工業大学教育支援機構規程

○学校法人金沢工業大学教育支援機構規程

(平成 13 年 4 月 1 日施行)

改正 平成 21 年 4 月 1 日

(目的)

第 1 条 学校法人金沢工業大学教育支援機構(以下「教育支援機構」という。)は、学校法人金沢工業大学が設置する教育支援組織の行う教育活動の振興を総合的に推進することを目的とする。

(事業)

第 2 条 教育支援機構は前条の目的を達成するため次の各号に掲げる事業を行う。

- (1) 学生の自学自習支援
- (2) 学生の技能及びスキル向上のための講習会、講座等の開催
- (3) 学生の資格取得支援
- (4) 教育支援組織の組織化と支援
- (5) 学生プロジェクト活動の組織化と支援
- (6) 教育関連情報の収集、整備、充実
- (7) 教育研究活動の振興
- (8) 教育研究活動の公開
- (9) 情報インフラ環境の整備、充実
- (10) 実技教育支援のための技術員派遣
- (11) 学生、教職員、卒業生の生涯学習支援
- (12) その他、前条の目的達成に必要な事業

(運営委員会)

第 3 条 教育支援機構の運営に関する事項を審議するために教育支援機構運営委員会(以下「委員会」という。)を設ける。

(委員会の審議事項)

第 4 条 委員会は次の事項を審議する。

- (1) 教育支援組織の事業に関する事。
- (2) 教育支援機構の事業計画に関する事。
- (3) 教育支援組織の設置、改廃に関する事。
- (4) その他、教育支援機構の運営に関する事。

(委員会の委員)

第 5 条 委員会の委員は理事長が任命する。

2 委員長は理事長が任命する。

(委員長)

第 6 条 委員長は、教育支援機構の事業を統括し教育支援機構を代表する。

(顧問)

第 7 条 教育支援機構は運営に関しての総合的な助言と指導を受けるための顧問を置くことができる。

(事務局)

第 8 条 教育支援機構の運営に関する調整は、産学連携機構産学連携推進部が行う。

附 則

- 1 この規程は、平成 13 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この規程は、平成 21 年 4 月 1 日から改正施行する。

(出典 学校法人金沢工業大学規則集)

4) ライブラリーセンター

ライブラリーセンターは、教室や実験室で得た知識を更に深める場として開館した新しい概念の図書館で、学習支援、研究支援、卒業生支援、地域の情報センターとしての役割を担っている（詳細は基準8で述べる）。

5) 情報処理サービスセンター

情報処理サービスセンターは、IT（情報技術）の驚異的な発展を背景に、コンピュータやネットワークを活用した教育や研究環境を提供するため積極的な支援を行うと共に、学園の「コンピュータネットワーク利用規範」を定め、情報倫理に関する学習コース（INFOSS）を準備し、コンピュータリテラシーに関する教育の一端を担っている（資料2-1-③-8：情報処理サービスセンター）。INFOSSは、全学生の受講を義務付けている。

資料 2-1-③-8

情報処理サービスセンター



●ネットワークの利用…6号館240室

金沢工科大学のキャンパスには、ギガビットのバックボーンを核に高速ネットワークが構築され、大型計算機(IBM eシリーズ)や大容量のサーバーをはじめ、教育・研究用のワークステーションや高性能パソコンが接続されている。また、キャンパス内随所に情報コンセントや、無線LANのアクセスポイントが設けられ、教材をはじめ、修学に必要なさまざまな情報をサーバーからダウンロードしたり閲覧することができる。

IT(情報技術)の驚異的な発展を背景に情報通信社会の変革が地球規模で進む中、情報処理サービスセンターでは、コンピュータやネットワークならびにマルチメディアを活用した先進的な教育や研究環境を提供するため積極的な支援を行っている。

詳しい情報：<http://mercury.kanazawa-it.ac.jp/dpc/>

■窓口取り扱い時間

6号館240室
月曜日～金曜日 …8:30～17:00
土曜日 ……8:30～13:00

ネットワークの利用

ネットワークを利用するには、情報倫理(インターネットを活用する上でのルールやマナー)に関する学習コース(INFOSS)を受講する必要がある。

■学内ネットワークへのパソコン接続(要申請)

各自のノートパソコンを学内に設置された情報コンセントにつなぐ事で、学内外のWebサーバーにアクセスして情報を得たりすることができる。

●情報コンセントの設置場所

- 1号館 中2階ラウンジ
- 6号館(LC) 2階マルチメディア考房
- 7号館 自習室
- 8号館 ラウンジ
- 21号館 LA TERRA(昼食時間帯は利用できない)
- 夢考房 etc.

■メールサーバーの利用(要申請)

メールサーバーjupiter(大学学部生と共用)を利用して、電子メールを送受信することができる。

■VPNによるネットワーク接続(要申請)

「Remote-VPNサービス」を利用して、自宅のパソコンからインターネットを経由し、学内ネットワークに接続することができる。

詳細は

<http://mercury.kanazawa-it.ac.jp/dpc/remote-vpn/>を参照。

■無線LANによるネットワーク接続(要申請)

「無線LANインターフェイス」を利用して、学内に設置されたアクセスポイントを経由し、学内ネットワークに接続することができる。

詳細は

<http://mercury.kanazawa-it.ac.jp/dpc/wireless-LAN/>を参照。

●無線LANのアクセスポイント対象エリア

- 1号館 2階ラウンジ
- 5号館(LC) 2階総合フロア、4～11層分野別フロア
- 7号館 自習室、2階西側ラウンジ、4階北側
- 8号館 ラウンジ
- 21号館 LA TERRA(昼食時間帯は利用できない)
- etc.

AVに関する各種サービス

情報処理サービスセンターAV室(12・406)ではゼミ、研究を目的としたAVに関する各種サービスを行っている。

詳しい情報：<http://mercury.kanazawa-it.ac.jp/av/>

■視聴覚機器貸出(事前予約が必要)

ビデオデッキ、ビデオプロジェクター、OHP、ムービーなどを貸し出している。

■視聴覚資料制作

プレゼンテーションなどの視聴覚資料の出力サービスを行っている。

- 動画データ
- 静止画データ
- ビデオプリント
- OHPシート
- スライドフィルム など

■AVに関する技術相談

なんでも気軽に相談してほしい。

(出典 学生便覧 2012 P.140-141)

6) 自己開発センター

自己開発センターは、各資格試験の情報提供をはじめ、資格取得のための講習会を多数開催している。正課の授業と関係のある資格取得を推奨し、学習意欲や理解度など総合的な能力向上につなげている(資料2-1-③-9:自己開発センター、資料2-1-③-10:自己開発センター利用実績)。

自己開発センター



在校中の資格取得のためにさまざまなバックアップを行っている。

「資格は実力の証明」「学歴は無限の可能性への保証」という言葉があるが、資格は就職活動の際、心強い味方となってくれるはず。

語学系、国家・地方公務員や秘書技能検定、宅地建物取引主任者などの実務系資格および機械設計技術者、電気主任技術者、情報処理技術者、公害防止管理者などの専門資格など、幅広い資格取得をサポートしていることも特徴だ。

詳しい情報：<http://www.kanazawa-it.ac.jp/shikaku/>

利用時間

月曜日～金曜日…… 8：30～17：00

土曜日…………… 8：30～13：00

自己開発センターで取り扱っている資格試験

- 公務員(国家・地方)
- 機械関係
- 電気・電子関係
- 情報関係
- 土木・建築関係
- 環境・化学関係
- 高度技術系
- 語学関係
- 実務関係
- 認定講習



在校中に資格を取ろう。

自己開発センターで取り扱っている資格試験

●一般公務員

1. 国家公務員、地方公務員

●機械関係

2. CAD利用技術者(2D・3D)
3. ボイラー技士(1/2級)
4. 機械設計技術者(3級)

●電気・電子関係

5. 電気主任技術者
6. 電気工事士
7. 電気通信主任技術者
8. 工事担任者
9. 陸上無線技術士
10. 特殊無線技士
11. ラジオ・音響技能検定
12. 家電製品エンジニア・アドバイザー
13. 消防設備士
14. 施工管理技士試験(電気)
15. 情報処理技能検定

●情報関係

16. 情報処理技術者
(IT/スポーツ/基本情報/ソフトウェア開発など)
17. CG検定
(CGクリエイター/エンジニア/マルチメディアなど)
18. デジタル技術検定
19. インターネット検定(Com Master)
20. オラクルマスター
21. シスコ技術者認定
22. J A V A プログラミング検定

●土木・建築関係

23. 施工管理技士試験
(電気工事/土木/建築/建築)
24. 宅地建物取引主任者

●環境・化学関係

25. バイオ検定者
26. e c o 検定
27. 公害防止管理者
28. 危険物取扱者

●高度技術系

29. 技術士(補)
30. F E 試験

●語学関係

31. 実用英語技能検定
32. 工業英語能力検定
33. T O E I C
34. ドイツ語検定
35. 中国語検定
36. 日本漢字能力検定
37. 日本語検定
38. 韓国語能力試験
39. 語彙・読解力検定

●実務関係

40. 知的財産検定
41. 秘書技能検定
42. 簿記検定(日商)
43. カラーコーディネーター検定(日商)
44. 福祉住環境コーディネーター(日商)
45. 実用数学技能検定
46. 開明コンサルタント
47. マイクロソフト認定試験(MOS)

●認定講習

48. ガス溶接技能者
49. 2級ボイラー実習講習(受験資格取得)
50. 電気取扱業務安全衛生特別教育

*資格の詳細については、LICENSE(各種資格について)を参照してください。

(出典 学生便覧 2012 P.143)

自己開発センター利用実績

資格名	平成17年度		平成18年度		平成19年度		平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		
	合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計		
	合格者	受験者													
国家公務員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
危険物取扱者	21	88	25	71	24	73	16	71	36	110	19	74	21	69	
消防設備士	0	3	0	2	0	2	0	2	0	0	0	2	1	1	
ボイラー技士	0	1	0	5	0	4	0	2	0	25	0	2	0	0	
電気主任技術者	1	34	0	35	0	24	0	31	0	1	0	15	0	4	
電気工事士	15	52	0	35	0	42	3	3	5	27	4	11	0	17	
電気通信主任技術者	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	
工事担任者	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	
ラジオ・音響技能検定	0	1	0	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	
陸上無線技術士	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
特殊無線技士	1	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	
情報処理技術者	4	52	8	52	5	37	1	23	5	28	7	49	5	21	
デジタル技術検定	2	6	2	4	0	0	1	1	0	0	0	2	12	17	
画像情報技能検定	6	22													
CGクリエイター検定			4	14	1	7	1	4	2	3	1	4	0	0	
CGエンジニア検定			1	3	1	2	4	8	1	1	1	2	0	0	
マルチメディア検定			0	5	1	3	0	0	0	1	0	0	0	0	
JAVAプログラミング能力認定			0	0	0	1	0	0					10	17	
映像音響処理技術者					0	1	1	2	0	0	0	0	1	1	
火薬類保安責任者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
公害防止管理者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
バイオ技術者			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
技術士補	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
FE(PE一次試験)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
機械設計技術者	13	45	2	44	5	10	2	10	4	23	6	10	0	9	
実用英語技能検定	37	87	18	57	12	24	10	25	12	23	15	40	13	34	
工業英語検定	8	21	6	17	1	9	1	5	1	4	2	6	1	3	
漢字能力検定	11	47	13	45	8	32	13	33	5	24	6	33	5	13	
日本語文章能力検定	8	22	11	32	3	9	6	8	1	8	0	0			
日本語検定							1	2	21	30	22	48	6	30	
実用数学技能検定	22	81	20	61	12	40	6	34	2	12	5	16	10	41	
ドイツ語技能検定	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
中国語検定	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
韓国語能力試験											0	0	0	0	
T OEIC(配布者数のみ)									0	20	0	13	0	22	
パーソナルコンピュータ利用技術認定	12	31	0	0	0	0	0	0	0						
宅地建物取引主任者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
日商簿記検定	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	6	0	6	
秘書技能検定	6	12	6	8	3	12	2	7	14	60	28	131	22	75	
カラーコーディネーター検定	3	24	1	5	0	10	5	15	4	6	1	4	0	4	
情報技術検定(高専対象)	58	112	16	36	78	140	105	166	50	99	63	105	75	107	
ガス溶接技能者	5	7	21	35	10	16	0	0	26	26	16	16	9	9	
照明コンサルタント	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
施工技術者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
福祉住環境コーディネーター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	
家電製品エンジニア	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	
家電製品アドバイザー	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	0	1		
電気取扱業務安全衛生特別教育	46	47	31	32	48	48	32	34	50	52	18	21	7	7	
インターネット検定	1	1	0	6	0	4	0	1	0	1	0	1	2	2	
生物分類技能検定	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
CAD利用技術者	0	0	0	不明	0	不明	0	不明	0	0	0	0	1	4	
3次元CAD利用技術者											0	1	3	7	
環境社会検定(ECO検定)					0	0	0	0	0	1	2	2	0	0	
マイクロオフィススペシャリスト					0	0									
QC検定														0	0
語彙・読解力検定														3	3
マイクロソフト認定試験							20	31	82	129	32	62	19	29	
知的財産管理技能検定									0	0	0	3	0	1	
合計	280	800	185	607	213	553	230	520	321	719	248	689	226	554	

(出典 自己開発センター資料)

7) 夢考房

夢考房は現場技術者を養成する実践の場として位置づけられており、ものづくりに必要となる基本的な安全作業と手工具の正しい使い方をはじめ、様々な加工機械の使い方を習得するライセンス講習会を開催している。また、機械工学科の実験・実習で利用する他、工学と創造の面白さ、知識を応用することの楽しさを実感できる創造空間として活用している。夢考房は「学生が発想したアイディア

を形にできる環境」として、①学生のものづくりに対する興味関心を触発すること、②工作すること、考えることの楽しさを体験すること、③達成感を得ること、④知恵を創出することを体験すること、⑤安全が最優先されることを認識させることの5項目を大切に運営している（資料2-1-③-11：夢考房26、夢考房41、資料2-1-③-12：夢考房ライセンス講習会、資料2-1-③-13：夢考房授業時間割、資料2-1-③-14：夢考房利用実績）。

資料2-1-③-11

夢考房 26、夢考房 41



夢考房は、自由に利用できる工作環境。ものづくりの喜び、失敗の経験、試行錯誤の数々、仲間たちとの議論は工学の原点だ。夢考房26では、手工具から各種工作機械までを取り揃え、多種なものづくりに対応する機能が、常駐する技師や学生スタッフから適切なアドバイスを受けることができる。

■夢考房の機能

- 「ものづくり」を行う場所として活用できる。
 - 「ものづくり」に必要な道具が揃っている。
 - 各種材料・部品を提供するパーツショップもある。
 - 安全な「ものづくり」を支援する技師と学生スタッフがいる。気軽に相談してほしい。
 - 11種類の安全講習会を開講している。ぜひ、受講しよう。
 - 夢考房プロジェクト活動を支援している。君の夢をプロジェクトにしてみないか？
- その他、ものづくり、安全作業に関することは、何でも相談してほしい。

■利用方法

学生証で入館手続きをすれば、全学生が自由に使用可能。但し、安全に工作を行うために、使用する工具・機械によって「夢考房ライセンス」を取得しなければならないものもある。

■利用時間

月曜日～金曜日……8：40～21：00
土曜日……8：40～17：00
休日……9：30～17：00

詳しい情報や開館日は、HPで確認できる。

<http://www.kanazawa-it.ac.jp/yumekobo/>

■各種サービス

■夢考房ライセンスの受付

夢考房26・41で、各種工具や工作機械を利用する場合、「夢考房ライセンス」を取得する必要がある。学費やプライス値、板金など、使用する工具・機械によってさまざまなコースがある。詳細は夢考房26まで。

<http://www.kanazawa-it.ac.jp/yumekobo/support/license.html>

ぶらりと訪ねて、
気軽に創作。
サポート万全、夢考房26。

■主な機能

- ものづくり相談
- 金属工作
- 木材・プラスチック工作
- Tシャツプリント
- ステッカーの作成
- 自転車の修理
- 模型製作
- 実験装置の設計・組み立て
- プレゼンテーション資料作成
- デジタルカメラ、ビデオカメラの貸し出し
- ポスター印刷
- パーツショップ



夢考房41の1階はフリースペースとなっている。グループでの活動に活用して欲しい。

樹脂工作や塗装、プリント基板製作の設備から、ガット張り、スキーやスノーボードのチューンナップといったサポートまである。

また、模型製作にはかかすことのできないギアBOX、モータなどのパーツを始め、バルサ材、スチレンボードなども在庫している。きつものづくりの役に立つはずなので、要チェック。

なお、金沢工業大学のロボットや人力飛行機など、夢考房プロジェクトの活動の場ともなっているので、見学や参加を希望する学生は、訪ねてみると良いだろう。

利用時間

月曜日～金曜日……8：40～21：00
土曜日……8：40～17：00
詳しい情報や開館日は、HPで確認できる。
<http://www.kanazawa-it.ac.jp/yumekobo/>

学生プロジェクトの企画

夢考房は、大学だけの施設ではない。夢考房で創ってみたいテーマができれば、ぜひ先生に提案して欲しい。

■夢考房で活動しているプロジェクト

- ソーラーカープロジェクト
- 人力飛行機プロジェクト
- ロボットプロジェクト
- エコランププロジェクト
- 建築デザインプロジェクト
- RoboCupプロジェクト
- フォーミュラカープロジェクト
- メカニカルサポートプロジェクト
- 風力発電プロジェクト
- 福祉機器開発プロジェクト
- 小型無人飛行機プロジェクト
- 自律走行車プロジェクト
- 組込みソフトウェアプロジェクト

巨大な創作スペースは、君たちのアトリエ。夢考房41を活用しよう。

主な機能

- ものづくり相談
- 木材・プラスチック工作
- 樹脂工作
- 溶接
- 塗装
- 電子回路/プリント基板製作
- テニスラケットのガット張り
- スキー&スノーボードチューンナップ
- 自転車のバンク修理
- デジタルカメラ、ビデオカメラの貸し出し
- パーツショップ



(出典 学生便覧 2012 P.144-145)

夢考房ライセンス講習会



夢考房ライセンス講習会では、ものづくりの場に必要な基本的な安全作業と手工具、加工機械の使い方を習得することで、安全作業を行うための基礎付け、加工方法の向上と作業時間の短縮を目指します。
 まずは、step1の安全講習で「安全作業の基礎知識」「夢考房の利用方法」「簡単な工作知識」を習得し、自分のニーズに応じて、step2-3の講習を受講して下さい。
 開催場所は、丹後日から会津日は16時45分から19時45分（一部、木曜日は13時から16時）、土曜日および休業中は13時から16時の3回です。

step1

安全講習

安全と事故防止の考え方、手工具を中心とした作業実習と夢考房の機能・設備について紹介を行います。夢考房の電気加工・木材加工を体験しながら安全に作業を行う心構えを身につけます。

step2

安全講習修了者が受講できます。機密・装置の安全な操作方法、加工方法および計測方法が習得できます。自分の目的に合わせてアツのコースから、希望のコースを受講してください。

1 木材加工	木工用鋸を使った木工製作づくり（サンディングペーパー、丸鋸盤、厚盤鋸、台盤面研削の機能と使用）
2 電気・電子	回路の作り、回路の接続、サーキットブスター、安全な電源（オシロスコープの使い方）
3 機 密	夢考房の印刷、射打、穴あけ、裏面研磨機（シャーピング）、プレスブレーキ、パイプローラー、コンターマシン、スロット加工機（機能と使用）
4 溶 接	両面の手動溶接と自動溶接の仕組み（溶接設備、加工設備の機能）
5 ホール鑽	いろいろな材料に穴をあける機械（金剛石の穴あけ加工などの特殊加工の紹介）
6 フライス盤	平面、曲面を加工する機械（注意フライス、エンドミル加工の紹介）
7 鋸 盤	丸鋸盤の機能（穴あけ、裏面研削、溝入れ、口送り）、円形穴あけ

step3

「電気・電子」「金属加工」コースのどちらにも前段階を習得するために3コースを受講しています。希望のコースを選択して受講してください。

電気・電子コース受講済み対象者	
プリント基板	回路設計ソフトの使用（方法説明のeラーニング） 基板製造加工場の見学実習
回路設計	アナログ回路設計・デジタル回路設計の実験、計測器の使用（方法説明）
ホール鑽・フライス盤・自動の3コース受講済み対象者	
3Dフライス盤	回路制御で動作するフライス盤

step1 から step3 の講習に加え、「ものづくり」のレベルアップを目的として、『新製品開発のノウハウ』『建築デザインにおけるイメージの表現』『プログラミング』『実務設計』『強度解析』講習会など、多くの分野の講習会を実施します。講習会開催の日程については、Web でお知らせしています。



ホームページ
<http://www.kanazawa-it.ac.jp/yumekobo/>

- 夢考房のホームページより事前手続書を行ってください。手続は、開催日の4日前の午前8時から開始します。2日前の午前7時30分締め切りで定員を超えた場合は、抽選となります。抽選の結果は、メールでお知らせします。
- 予定を前手続書でキャンセルする場合は、ホームページから手続書を行ってください。ホームページでのキャンセルが行えない場合は、夢考房26-26号館まで申し出てください。
- 開催次第は別途通知は、ペアルチヤとして、開催3日前は事前でください。



- 「実習費」など、講習が受講できるような上下の服装、「保護メガネ」等も準備してください。
- 机の隅に多いTシャツやズボンなどの荷物、サンダル、かかとを隠したスリッパ等の荷物や、フーズ・ハイセルなどの飲み物の高い荷物をお願いいたします。受講できません。
- スポンジが落ちやすいペルト製のもの、持ち運びしにくいものをお願いいたします。
- ペルトに付いているキーホルダーやアクセサリーなどのぶらぶらしたものは、機密に巻き込まれる危険があるためです。ペルトから取り外し、ポケットに入れてください。



- 夢考房ライセンスカードは、「プロジェクトデザイン（入門・実践）」等の名札としても活用します。大切に保管してください。
- step1-step2 をすべて受講した方には、夢考房の機能をおく活用して勉強活動に取り組みたいとして、ゴールドカードを発行します。また、卒業時には「表彰式」を実施します。
- step3 を受講した方には、「電気・電子」または「金属加工」の専門コースの上級者という位置づけで、シルバーカードを発行します。

- 都合により講師が変更中止する場合は、1週間前に夢考房26号館（案内係）に中止を別お知らせします。
- 開催してはしぬ講習会がありましたら「Your View」に投稿ください。

(出典 夢考房資料)

夢考房授業時間割

平成24年度 機械工学科 創造設計Ⅰスケジュール

実験日：水曜日 6～7限(14:10～16:00)

場所： 第1～第3週 [M1教室、製図室、夢考房41号館] 第4～第15週 [M1教室、製図室、夢考房26号館]
 第16～第30週 [M1教室、製図室、夢考房26号館]

担当教員：秋山 晃、金井 亮、塚本義一、東 武志

服装等：実験服着用(ブレザーの上からの着用禁止、袖口のホックをとめる)

持ち物等：テキスト、電卓、レポート用紙(A4)、グラフ用紙(A4-1mm方眼)、筆記具、ハンカチ
 製図用具(長さと体積の測定と図面、ミニカーの設計・製図の班)

週	日 (原則水曜)	A 班 (**~**)**名			B 班 (**~**)**名		
		1班 (**~**)**名	2班 (**~**)**名	3班 (**~**)**名	4班 (**~**)**名	5班 (**~**)**名	6班 (**~**)**名
1	4月11日	安全講習とオリエンテーション[M1教室、夢考房見学 (秋山、金井、塚本、東)]			安全講習とオリエンテーション[M1教室、夢考房見学 (秋山、金井、塚本、東)]		
2	4月18日	長さの測定と図面[M1教室、製図室] (金井)			手工具の実技講習[夢考房41号館] (秋山、東)		
3	4月25日	手工具の実技講習[夢考房41号館] (秋山、東)			長さの測定と図面[M1教室、製図室] (金井)		
4	5月9日	旋盤講習 [夢考房26号館] (東)	ホール盤講習 [夢考房26号館] (秋山)	フライス盤講習 [夢考房26号館] (塚本)	ミニカーの設計製図 [M1教室、製図室] (金井) [6週]		
5	5月16日						
6	5月23日	フライス盤講習 [夢考房26号館] (塚本)	旋盤講習 [夢考房26号館] (東)	ホール盤講習 [夢考房26号館] (秋山)			
7	5月30日						
8	6月6日	ホール盤講習 [夢考房26号館] (秋山)	フライス盤講習 [夢考房26号館] (塚本)	旋盤講習 [夢考房26号館] (東)			
9	6月20日						
10	6月27日	ミニカーの設計製図 [M1教室、製図室] (金井) [6週]			旋盤講習 [夢考房26号館] (東)	ホール盤講習 [夢考房26号館] (秋山)	フライス盤講習 [夢考房26号館] (塚本)
11	7月4日						
12	7月11日						
13	8月29日						
14	9月5日						
15	9月19日						
16	10月3日	ミニカーの製作 [夢考房26号館] (秋山、塚本、東) [8週]			往復車を学ぶ ・センサーの動作 ・リレーの動作 ・トランジスターの動作 ・往復車の動作 [M1教室、製図室] (金井) [8週]		
17	10月10日						
18	10月24日						
19	10月31日						
20	11月14日						
21	11月21日						
22	11月28日						
23	12月5日						
24	12月19日	往復車を学ぶ ・センサーの動作 ・リレーの動作 ・トランジスターの動作 ・往復車の動作 [M1教室、製図室] (金井) [8週]			ミニカーの製作 [夢考房26号館] (秋山、塚本、東) [7週]		
25	1月9日						
26	1月16日						
27	1月23日						
28	1月30日						
29	2月6日						
30	2月20日						
31	**月**日				特別時間割		

平成24年度 機械工学科 創造設計Ⅱスケジュール表

2012.3.6

実験日	金曜日1限～3限(ただし、6/12は火曜日、11/22は木曜日)	
実施場所	下記スケジュール表参照	
科目代表者	天日 三知夫	
担当教員	ジャイロスコープの製作	東 武志、天日 啓之
	自作ばねを用いた工学基礎実験	天日 三知夫
	模型車の制御	林 道大
服装等	実験服着用(プレーザーの上からの着用は禁止、袖口のホックを止めること。)	
持ち物等	ジャイロスコープの製作	テキスト、筆記具、電卓、製図用具、レポート用紙(A4)、 グラフ用紙(A4-1mm方眼)、ハンカチ
	自作ばねを用いた工学基礎実験	テキスト、筆記具、電卓、レポート用紙(A4)、ハンカチ
	模型車の制御	テキスト、筆記具、電卓、3色ボールペン(赤・黒・青)、定規

週	月	日	1班(1～15)15名	2班(16～31)16名	3班(32～47)16名	夢26	夢41	
			ガイダンス [M2教室]					
1	4	13				15	16	
2	4	20				31	16	
3	4	27	ジャイロスコープの製作	自作ばねを用いた 工学基礎実験	模型車の制御		15	16
4	5	11				15	16	
5	5	18				15	16	
6	5	25	[夢考房26]	[夢考房41]	[2階多目的実験室]	15	16	
7	6	8	※6/22,6/29は、放課後も	ただし、4/20は、		15	16	
8	6	12	学生(最大15名)が利用?	[夢考房26]も利用する (旋盤2台使用)		15	16	
9	6	22				15放	16	
10	6	29				15放	16	
11	7	6				16	16	
12	7	13				32	16	
13	8	31	模型車の制御	ジャイロスコープの製作	自作ばねを用いた 工学基礎実験		16	16
14	9	7				16	16	
15	9	21				16	16	
16	10	12	[2階多目的実験室]	[夢考房26]	[夢考房41]	16	16	
17	10	19		※11/2,11/16は、放課後も	ただし、7/13は、	16	16	
18	10	26		学生(最大16名)が利用?	[夢考房26]も利用する (旋盤2台使用)	16	16	
19	11	2				16放	16	
20	11	16				16放	16	
21	11	22				16	15	
22	11	30				31	15	
23	12	7	自作ばねを用いた 工学基礎実験	模型車の制御	ジャイロスコープの製作		16	15
24	12	14				16	15	
25	12	21				16	15	
26	1	11	[夢考房41]	[2階多目的実験室]	[夢考房26]	16	15	
27	1	18	ただし、11/30は、		※2/8,2/15は、放課後も	16	15	
28	2	1	[夢考房26]も利用する		学生(最大16名)が利用?	16	15	
29	2	8	(旋盤2台使用)			16放	15	
30	2	15				16放	15	

創造設計Ⅲスケジュール

実験日：月曜日1、2、3限

場所：2階多目的実験室、パソコン室、夢考房26

担当教員：杉森先生、西田先生、東先生、小間徹也

服装等：実験服着用（ブレザーの上からの着用禁止、袖口のホックをとめる）

持ち物等：テキスト（創造設計Ⅲ、機械製図、機械設計、ロボコン部品ガイド）、電卓、筆記具、マジック、ノート

週	月日	授業内容
1	4月9日	ガイダンス
		ライトレースの原理
		機構要素 ディファレンシャルギア・アッカーマンリンク
		構成分析 見本のロボットを見て班毎、ロボットの材料・部品・加工法などをマインドマップを使って分析する 仕様書作成・仕様書とは・仕様書の書き方
2	4月16日	製図・加工作業説明
		スケジュールリング スケッチ
3	4月23日	スケッチ
4	5月7日	NCプログラミング
5	5月14日	旋盤加工・製図
6	5月21日	旋盤加工・製図
7	6月11日	旋盤加工・製図
8	6月18日	旋盤加工・製図
9	6月25日	製作依頼(図面交換)
		旋盤加工・加工・NC実習・回路製作
10	7月2日	旋盤加工・加工・NC実習・回路製作
11	7月7日	旋盤加工・加工・NC実習・回路製作
12	9月3日	旋盤加工・加工・NC実習・回路製作
13	9月10日	製作依頼(図面交換)
		旋盤加工・加工・NC実習・回路製作
14	9月24日	旋盤加工・加工・NC実習・回路製作
15	10月1日	旋盤加工・加工・NC実習・回路製作
16	10月8日	旋盤加工・加工・NC実習・回路製作
17	10月15日	旋盤加工・加工・NC実習・回路製作
18	10月22日	旋盤加工・加工・NC実習・回路製作
19	10月29日	旋盤加工・加工・NC実習・回路製作・ポートフォリオ指導
20	11月12日	旋盤加工・加工・NC実習・回路製作・ポートフォリオ指導
21	11月19日	旋盤加工・加工・NC実習・回路製作・ポートフォリオ指導
22	11月26日	旋盤加工・加工・回路製作・ポートフォリオ指導
23	12月3日	旋盤加工・加工・回路製作・ポートフォリオ指導
24	12月17日	旋盤加工・加工・回路製作
25	1月7日	加工残仕上げ・組立
26	1月14日	加工残仕上げ・組立
27	1月21日	加工残仕上げ・組立・試走
28	1月28日	ポートフォリオ整理・改善提案書作成
29	2月4日	技術審査(改善提案発表)
30	2月18日	大会

平成24年度 機械工学科 創造設計Ⅳ スケジュール表

授業日: 木曜 1限から4限
 担当教員: 松井洋、伊藤恒平、天日啓之
 服装など: 実験服着用(プレーザの上からの着用禁止、袖口のホックをとめる)
 題目: 校内案内ロボットの製作
 学生数: 35名(5個班)

授業回数	日付	各時間の実施内容の概要				メモ	参考房
		1限	2限	3限	4限		
1	4月12日	校内案内ロボット概要説明 チーム分け	仕様書 ポートフォリオ	ブレーストミング練習	仕様の確認		
2	4月19日	ロボットの構造・機構の設計と製図についての講義			H23年度ロボット評価	ロボット評価表提出	
3	4月26日	ロボットの制御回路とプログラムについての講義			H23年度ロボット評価	ロボット評価表提出	
4	5月10日	ポートフォリオの書き方 アウトプットの確認	3DCAD「インベーター」の使用法				
5	5月17日	計画図の作成				PC室	
6	5月24日	計画図の作成				PC室	
7	6月7日	計画図の作成				PC室	
8	6月11日	計画図の作成				PC室、 計画図完成提出 月曜日授業	
9	6月21日	計画図選択決定・役割分担の決定		仕様書・部品図作成・制御講義・実体配線図作成・注文票作成			
10	6月28日	仕事の割り振り	仕様書・部品図作成・制御講義・実体配線図作成・注文票作成				
11	7月5日	仕事の割り振り	仕様書・部品図作成・制御講義・実体配線図作成・注文票作成				
12	7月12日	仕事の割り振り	仕様書・部品図作成・制御講義・実体配線図作成・注文票作成				
13	8月30日	仕事の割り振り	仕様書・部品図作成・制御講義・実体配線図作成・注文票作成			仕様書・図面・注文票提出	△26号館
14	9月6日	仕事の割り振り	技術審査準備・プレゼンテーション資料作成				△26号館
15	9月20日	第1回技術審査					△26号館
16	10月4日	仕事の割り振り	加工・基板作成・プログラム				○26号館
17	10月11日	仕事の割り振り	加工・基板作成・プログラム				○26号館
18	10月18日	仕事の割り振り	加工・基板作成・プログラム				○26号館
19	10月25日	仕事の割り振り	加工・基板作成・プログラム				○27号館
20	11月1日	仕事の割り振り	加工・基板作成・プログラム				○26号館
21	11月15日	検査準備	加工納入検査				△26号館
22	11月29日	仕事の割り振り	組立				○26号館
23	12月6日	仕事の割り振り	組立				○26号館
24	12月13日	仕事の割り振り	組立				△26号館
25	12月20日	仕事の割り振り	運用テスト①			点数付け	△26号館
26	1月26日	仕事の割り振り	運用テスト②			点数付け	△26号館
27	1月27日	仕事の割り振り	運用テスト③			点数付け	△26号館
28	1月31日	仕事の割り振り	運用テスト④			点数付け	△26号館
29	2月7日	仕事の割り振り	技術審査準備・プレゼンテーション資料作成				△26号館
30	2月14日	第2回技術審査				班・個人レポート提出	

○ 使用確率高い △ 使用確率低い

(出典 教務委員会資料)

夢考房利用実績

夢考房ライセンス講習会 高専生受講者数

単位:人

講習		H19	H20	H21	H22	H23
安全講習		194	54	58	45	75
Step2	旋盤	118	50	38	50	64
	フライス盤	71	87	38	49	58
	ボール盤	76	91	40	51	58
	板金	61	55	39	45	57
	溶接	57	67	38	40	17
	木工	60	53	39	46	56
	電気・電子	56	48	22	10	24
Step3	NCフライス盤		1	5	3	2
	平面研削盤		3			
	プリント基板	1	5	4	1	6
	回路設計	2		2	1	4
計		696	514	323	341	421

夢考房26(26号館)高専生利用者数

単位:人

	H18	H19	H20	H22	H23
4月	76	175	195	74	87
5月	224	210	219	187	224
6月	350	362	356	271	285
7月	245	257	224	364	413
8月	305	240	159	122	298
9月	504	564	415	204	260
10月	735	543	442	342	432
11月	427	481	452	552	533
12月	612	726	574	541	500
1月	490	473	273	288	281
2月	486	159	144	132	193
3月	309	164	100	102	142
計	4,763	4,354	3,553	3,179	3,648

(出典 夢考房資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校の全学的なセンターは、本校の教育目標「21世紀を担う、心豊かで、創造性にあふれたエンジニアの育成」を達成する上で、地域連携教育センターでは主に教育実践目標の「人間形成」を、創造技術教育研究所、ライブラリーセンター、情報処理サービスセンター、自己開発センター及び夢考房では主に教育実践目標の「エンジニアとして必要な能力の育成」を担っており、「Ⅱ 目的」を達成する上で適切なものとなっている。

観点 2-2-①： 教育活動を有効に展開するための検討・運営体制が整備され、教育活動等に係る重要事項を審議する等の必要な活動が行われているか。

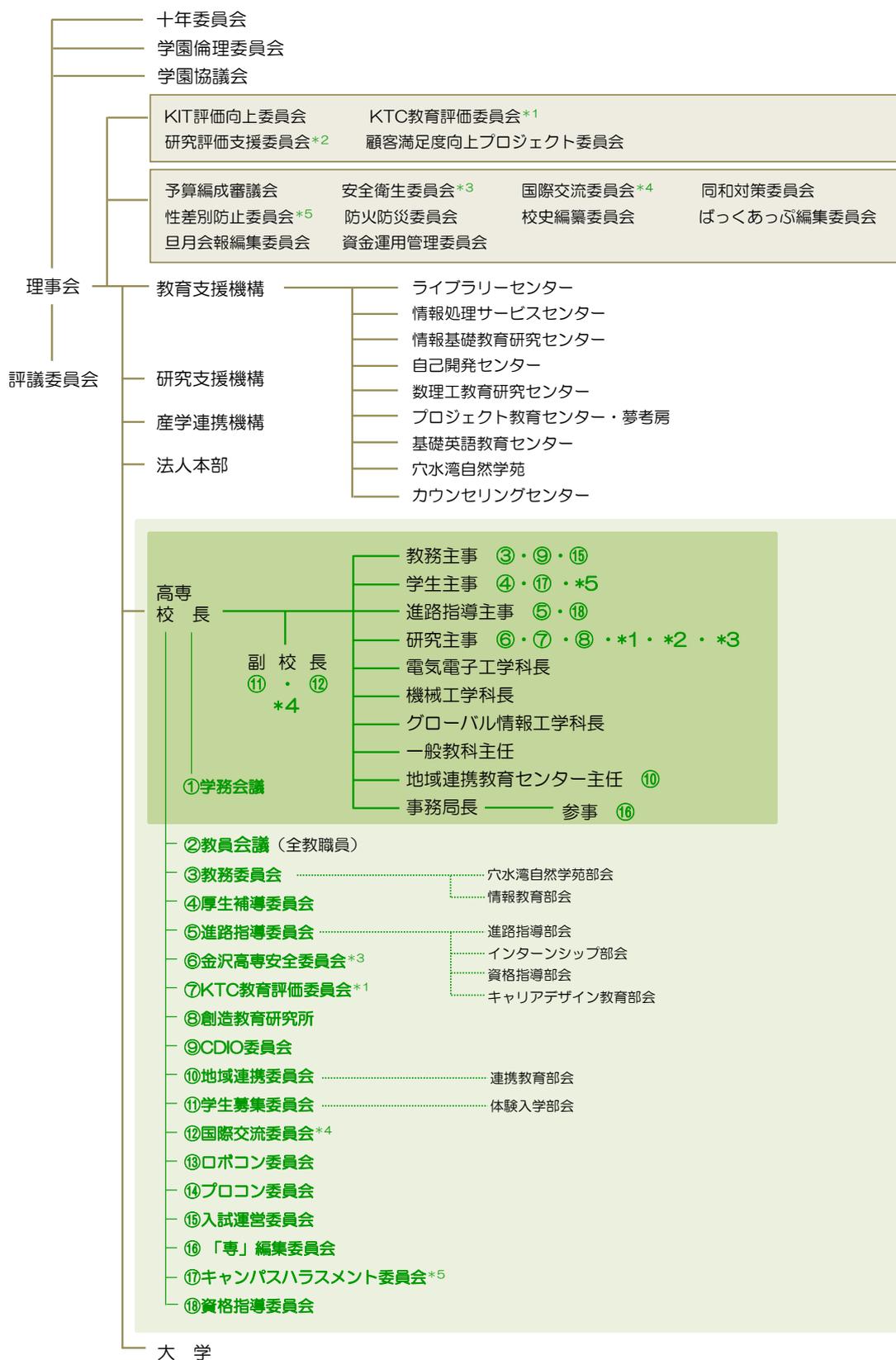
(観点に係る状況)

本校では校長を議長とする「学務会議」において、教育活動を円滑に展開するための学務運営とこれに関わる重要事項の審議を行っている。「学務会議」で企画立案された方針を具体的に行うために「教務委員会」、「厚生補導委員会」、「進路指導委員会」を設けている。これらの会議結果は、全教員が出席する「教員会議」で報告され周知されている。学務会議は月 2 回、教務委員会は月 1 回、教員会議は月 1 回、厚生補導委員会はその都度開催している。進路指導委員会ではキャリアデザイン教育に関する検討を行っている(資料 2-2-①-1：委員会等運営体制組織図、資料 2-2-①-2：委員会担当表、資料 2-2-①-3：金沢工業高等専門学校学務会議規程、資料 2-2-①-4：学務会議議事録、資料 2-2-①-5：金沢工業高等専門学校教務委員会規程、資料 2-2-①-6：教務委員会議事録、資料 2-2-①-7：金沢工業高等専門学校厚生補導委員会規程、資料 2-2-①-8：厚生補導委員会議事録、資料 2-2-①-9：金沢工業高等専門学校進路指導委員会規程、資料 2-2-①-10：キャリアデザイン教育報告書、資料 2-2-①-11：教員会議議事録)

この他、学園に「KTC 教育評価委員会」及び「国際交流委員会」を設け、教育活動全般の自己点検評価や外部点検評価及び派遣留学や海外インターンシップなど国際交流の重要事項を審議している

(資料 2-2-①-12：KTC 教育評価委員会規程、資料 2-2-①-13：KTC 教育評価委員会議事録、資料 2-2-①-14：国際交流委員会規程、資料 2-2-①-15：国際交流高専委員会議事録)。

委員会等運営体制組織図



(出典 学務会議資料)

委員会担当表

24.5

平成24年度教職員役主要割分担表

所属学科	氏名	学位	学務会議	教務委員会	教務係	厚生補導委員会	学生係	ロボコン委員会	プロコン委員会	進路指導委員会	教育評価委員会	CDIO委員会	安全委員会	地域連携委員会	国際交流委員会	創技教研究所	学生募集委員会	資格指導委員会	クラス担任	専門委員	キャンパス ハラスメント 委員会	
電気電子工学科	山田 弘文	D	校長																			
	直江 伸至	D	DT科長							○		○	○	○	○			○	T1副			
	香林 利男	D	地連主任											◎			●				外部評価	
	土地 邦生	D		○	○					○									D5担			
	松本 裕	M	研究主事								◎		◎				○			T2副	紀要編集	
	南出 章幸	D	教務主事	◎	◎							◎										
	藤島 悟志	D			●	○					○						○			D5副		
	諸谷 徹郎	M				●	○			○							○			T4担		
	柳橋 秀幸	D				○														T3副		
	H.オガフ	B											○									
	B.オグノインホ	B							○													
機械工学科	伊藤 恒平	M	M科長					○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	M1副			
	秋山 晃	D		○	○			○		○										M4担		
	杉森 勝	D				○	○													M4副		
	天日三知夫	M									○					◎				M2副	創研長	
	松井 洋	M				○	○													M3副	○	
	金井 亮	D		○	○			◎										○		M1担		
	林 道大	D				○		○	○				○							M2担	工作室	
	小間 徹也	B															○	○		M5担		
	A. シェイム	B										○										
	M. ベリー	B																				
グローバル情報工学科	元木 光雄	D	C・T科長					○	○	○	○	○	○	○	○			○	G1副			
	今澤 明男	M		○	○										●					G3副		
	田村 景明	D							◎											G2副	同窓会 ○	
	B.ゲイロード	B																				
	坂倉 忠和	M				●	○			○										C5担		
	松下 臣仁	M						○		○					○							
	藤澤 武	M					○	○				○					○	○		G2担		
	小高 有普	B			○			○														
	館 宜伸	D		○	○			○	○	○											G4担	電計長
	井上 恵介	D				○	○	○														
	R.ソガー	B										○										
	一般教科	大原しのぶ	M	一般主任										○								
		大崎 富雄	M	学生主事			◎		○	○			○									◎
		宮田 一郎	M			○																
D.ゲイロード		M																				
壽時 廣		M		○	○																	
高橋 文雄		D	進路主事							◎									◎	C5副	SPI	
瀧本 明弘		M												●			○			G3担		
中泉 俊一		B				○	○		○		○											○
原 孝美		M																		M3担	SL式典	
向井 守		M	副校長											○	◎		◎				Eセンタ	
宇都宮隆子		M				○	○													T2担		
木原 均		D								●	○							○		T3担		
中谷 亮子		M																				
松本 昇久		M				○	○														G4副	
宮野 純光		M		●	○												○				M5副	旦月会
S. フォブス		M																				
S. イアン		M																				
L. ノルトン		M																				
L. ネイサン		M																				
S. フォブス		M																				
L. ニュン	M																					
山崎 梓	M				○	○										○				G1担		
谷口 航	B				○	○	○									○				T1担		
山口 真史	B					○														T4副		
事務局	山岸 徹		事務局長			○				○	○	○	○	○			○					
	宮西 瑞子		参事	○				○	○													○
	中川 秀敏			○	○				○												system	
	河原 仁美																					
	小池田純子																					
	山崎 翔吾																					

(出典 学務会議資料)

金沢工業高等専門学校学務会議規程

○金沢工業高等専門学校学務会議規程

(平成 4 年 4 月 1 日施行)

改正 平成 15 年 4 月 1 日 平成 16 年 4 月 1 日
平成 18 年 4 月 1 日

第 1 条 この規程は、金沢工業高等専門学校学務会議（以下「学務会議」という。）について必要な事項について定める。

第 2 条 学務会議は、校長のほか次の者をもって構成する。

- (1) 副校長
- (2) 教務主事、学生主事、研究主事及び進路指導主事
- (3) 電気情報工学科科長、機械工学科科長及び国際コミュニケーション情報工学科科長
- (4) 事務局長
- (5) その他、校長が指名する者

第 3 条 学務会議は、次の事項について審議する。

- (1) 教育研究の質的向上に関する事項
- (2) 学則、その他教育研究に係る重要な規則に関する事項
- (3) 教育課程編成に関する事項
- (4) 学生の入学、退学、進級、休学、卒業の認定及び留学に関する事項
- (5) 学生の厚生補導に関する事項
- (6) 学生の賞罰に関する事項
- (7) 認証評価機関による第三者評価に関する事項
- (8) その他、校長からの諮問事項

第 4 条 学務会議は毎月開催するものとし、校長が招集する。又、校長が必要と認めたときは随時、開催することができる。

2 学務会議の議長は、校長が当たり、会務を主宰する。

第 5 条 議長は、必要があると認めるときは、構成員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

第 6 条 学務会議の事務は、事務局が行う。

2 事務局は、会議の議事録を作成し、議長の確認を得た後、これを保管する。

附 則

- 1 この規程は、平成 4 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この規程は、平成 15 年 4 月 1 日から施行する。
- 3 この規程は、平成 16 年 4 月 1 日から改正施行する。
- 4 この規程は、平成 18 年 4 月 1 日から改正施行する。

(出典 学校法人金沢工業大学規則集)

学務会議議事録

平成23年度 第26回 学務会議

日時：平成24年3月7日（水）16:00～

場所：会議室

出席者：山田弘文、南出章幸、大崎富雄、松本 裕、高橋丈雄、直江伸至、伊藤恒平、
元木光雄、香林利男、大原しのぶ、向井 守、山岸 徹、宮西瑞子

欠席者：

・校長挨拶

案件

Ⅰ 協議事項

- | | |
|-----------------------|--------|
| 1) 5年生卒業資格判定について | (教務主事) |
| 2) 卒業式・終業式表彰褒賞受賞者について | (学生主事) |
| 3) 学生指導規則について | (学生主事) |
| 4) 平成24年度校務分担について | (校長) |
| 5) 地域連携教育センターの運営について | (校長) |
| 6) 平成24年度のクラブ運営費について | (校長) |

Ⅱ 報告事項

- | | |
|---|----------|
| 1) 平成23年度教育成果発表会について | (研究主事) |
| 2) 「平成23年度教育改善成果に関する自己点検評価」及び「平成24年度教育改善に対する取り組みと目標」の提出について | (研究主事) |
| 3) 安全点検の実施について | (研究主事) |
| 4) 進路指導報告 | (進路指導主事) |

以上

(出典 学務会議資料)

金沢工業高等専門学校教務委員会規程

○金沢工業高等専門学校教務委員会規程

(平成 16 年 4 月 1 日施行)

第 1 条 この規程は、金沢工業高等専門学校教務委員会（以下「委員会」という。）
について、必要な事項を定める。

第 2 条 委員会は、次の者を委員として構成する。

- (1) 教務主事、教務副主事及び学科長
- (2) 教務主事又は学科長の推薦に基づき、校長が指名する者
- (3) 事務局長
- (4) その他、校長が指名する者

第 3 条 委員会は、次の事項について審議する。

- (1) 教務運営の方針及び教育実施状況の把握に関する事項
- (2) 教育内容の改善及び授業満足度評価に関する事項
- (3) 校長から諮問された事項
- (4) 学務会議から付託された事項
- (5) 教務主事から提案された事項
- (6) その他、教育運営全般に関する事項

第 4 条 委員会は、教務主事が招集し、その議長を務める。

2 教務主事に支障があるときは、教務副主事が議長の職務を代行する。

第 5 条 議長は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め意見を
聴くことができる。

2 前項の規定にかかわらず、校長は、随時、委員会に出席することができる。

第 6 条 議長は、委員会で審議された事項をとり纏め、学務会議に報告する。

第 7 条 委員会の事務は、事務局が行う。

2 事務局は、会議の議事録を作成し、議長の確認を得た後これを保管する。

附 則

1 この規程は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。なお本規程の施行により従前
の教務委員会申合せは廃止する。

(出典 学校法人金沢工業大学規則集)

教務委員会議事録

平成 24 年 3 月 7 日

平成 23 年度 第 12 回 教務委員会 議事録

日 時 : 平成 24 年 3 月 7 日 (金) 13 時 00 分 ~ 13 時 30 分
場 所 : 会議室
出席者 : 南出 章幸、宮野 純光、藤島 悟志、土地 邦生、秋山 晃、今澤 明男、中谷 亮子、中川 秀敏、宮西 瑞子
欠席者 : 壽時 廣

配付資料: ① 第 11 回教務委員会議事録

I. 確認事項

1. 前回議事録の確認【資料①】

主事から前回会議の議事録について訂正箇所があれば連絡するよう説明があった。

II. 協議事項

1. 卒業に関わる成績等の確認について

科目別成績一覧表をもとに、5 年の各学生が卒業に必要な修得単位数 177 を超えていることの最終確認を行った。確認時に以下の注意点が挙げられた。

- 4 年次編入学生 (C5 ■■■■):
 - ✓ 2 年間分 (4 年次 35 単位, 5 年生 37 単位) の取得を確認
 - ✓ 特活 2 単位を除くと 70 単位以上の取得が必要

5 年生全員の単位取得が認められた。

また、卒業判定結果集計資料について以下の項目の追記・改訂を行い、学務会議に上程することとなった。

- 4 年次編入学生用に 4, 5 年次 (2 年間) の修得単位数の追記
- 5 年次修得単位表に一般科目の必修・選択科目修得単位数を追記
- 表の見出しなど細かい修正事項の訂正

III. 報告事項

1. 特別活動の補講結果について

主事から特別活動の補講について以下の報告があった。

- 出席不良学生 (T1:2 名, M1:1 名) の補講が実施され報告書が提出

2. 人間と自然Ⅲの補講結果について

主事から人間と自然Ⅲの補講について以下の報告があった。

- C5 ■■■■ の補講が実施され報告書が提出
- 成績の締切日までに補講が終了したため、追認ではない

(文責 藤島)

(出典 教務委員会資料)

金沢工業高等専門学校厚生補導委員会規程

○金沢工業高等専門学校厚生補導委員会規程

(平成 16 年 4 月 1 日施行)

第 1 条 この規程は、金沢工業高等専門学校厚生補導委員会（以下「委員会」という。）について、必要な事項を定める。

第 2 条 委員会は、次の者を委員として構成する。

- (1) 学生主事、学生副主事及び学科長
- (2) 学生主事又は学科長の推薦に基づき、校長が指名する者
- (3) 事務局長
- (4) その他、校長が指名する者

第 3 条 委員会は、次の事項について審議する。

- (1) 学生の厚生補導に関する事項
- (2) 校長から諮問された事項
- (3) 学務会議から付託された事項
- (4) 学生主事から提案された事項
- (5) その他、学生の修学全般に関する事項

第 4 条 委員会は、学生主事が招集し、その議長を務める。

2 学生主事に支障があるときは、学生副主事が議長の職務を代行する。

第 5 条 議長は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め意見を聴くことができる。

2 前項の規定にかかわらず、校長は、随時、委員会に出席することができる。

第 6 条 議長は、委員会で審議された事項をとり纏め、学務会議に報告する。

第 7 条 委員会で審議された内容及び報告において知り得た個人情報については、その秘密を漏らしてはならない。

第 8 条 委員会の事務は、事務局が行う。

2 事務局は、会議の議事録を作成し、議長の確認を得た後これを保管する。

附 則

1 この規程は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。なお本規程の施行により従前の厚生補導委員会申合せは廃止する。

(出典 学校法人金沢工業大学規則集)

厚生補導委員会議事録

三進まてくまじい009
2011年9月28日作成

厚生補導委員会 議事録

内容	校内・校外 事件に対する対応	場所	2F ヲウロンジ
		日時	2011年3月28日(水) PM5:10～
出席者	大崎、坂本、鎌谷、松本(昇)、山崎、宇都宮、山口、山岸、松井(田口)	出席	副出席
		欠席	欠席
		連絡先	
		連絡内容	

(1)事件内容

1. 発生日時	23年 9月 20日(火) - 23年 9月 21日(水)
2. 発生場所	校内
	校外
3. 違反者	
4. 違反者	
5. 経緯	
6. 被害状況及び処置	大崎、松井(田口)、坂谷が事情聴取を行い、上述の通り相違ないことを確認した。
7. 保護者への連絡	連絡者
	連絡先
	連絡内容

12

大崎	坂本	鎌谷	松本	宇都宮	山崎	山口	山岸	松井	松島	谷合

平成 23 年 3 月 31 日

平成 23 年度第 1 回学生会会議事録

- 開催日時：平成 23 年 3 月 30 日(水) 10:00～11:15
- 開催場所：会議室
- 出席：大崎、鎌谷、松本(昇)、宇都宮、山崎、山口、松井、松島、谷合、坂谷
欠席：山口

議 事

1 報告事項

- 業務の概要および理由書について
鎌谷先生より、学生課が担当する業務の概要、および割り当てについて説明があった。主担当を中心に、全員で協力しながら実施する方針で進めていく。
- 障害学生に対する指導担当制について
鎌谷先生より、障害学生に対する指導担当制についての説明があった。ただし、授業の曜日変更があった場合には、その曜日に合わせて実施する。
- 学生指導の原則(自分の内規)について
宇都宮先生より、学生指導の原則(自分の内規)についての説明があった。また、この内規については再検討し、強化(より厳しく)したいとの方針が示された。
- 特別な指導を要する(またはその可能性のある)学生について
宇都宮先生より、特別な指導を要する(またはその可能性のある)学生についての説明があった。
宇都宮先生より、特別なことであっても連絡し合い、今後の対応などを検討していきたいとの話があった。

以上

(出典 厚生補導委員会資料)

金沢工業高等専門学校進路指導委員会規程

○金沢工業高等専門学校進路指導委員会規程

(平成 16 年 4 月 1 日施行)

第 1 条 この規程は、金沢工業高等専門学校進路指導委員会（以下「委員会」という。）について、必要な事項を定める。

第 2 条 委員会は、次の者を委員として構成する。

- (1) 進路主事、進路副主事及び学科長
- (2) 進路主事又は学科長の推薦に基づき、校長が指名する者
- (3) 事務局長
- (4) その他、校長の指名する者

第 3 条 委員会は、次の事項について審議する。

- (1) 進路指導の方針及び進路指導状況の把握に関する事項
- (2) 進路開拓に関する事項
- (3) 校長から諮問された事項
- (4) 学務会議から付託された事項
- (5) 進路主事から提案された事項
- (6) その他、進路指導全般に関する事項

第 4 条 委員会は、進路主事が招集し、その議長を務める。

2 進路主事に支障があるときは、進路副主事が議長の職務を代行する。

第 5 条 議長は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め意見を聴くことができる。

2 前項の規定にかかわらず、校長は、随時、委員会に出席することができる。

第 6 条 議長は、委員会で審議された事項をとり纏め、学務会議に報告する。

第 7 条 委員会の事務は、事務局が行う。

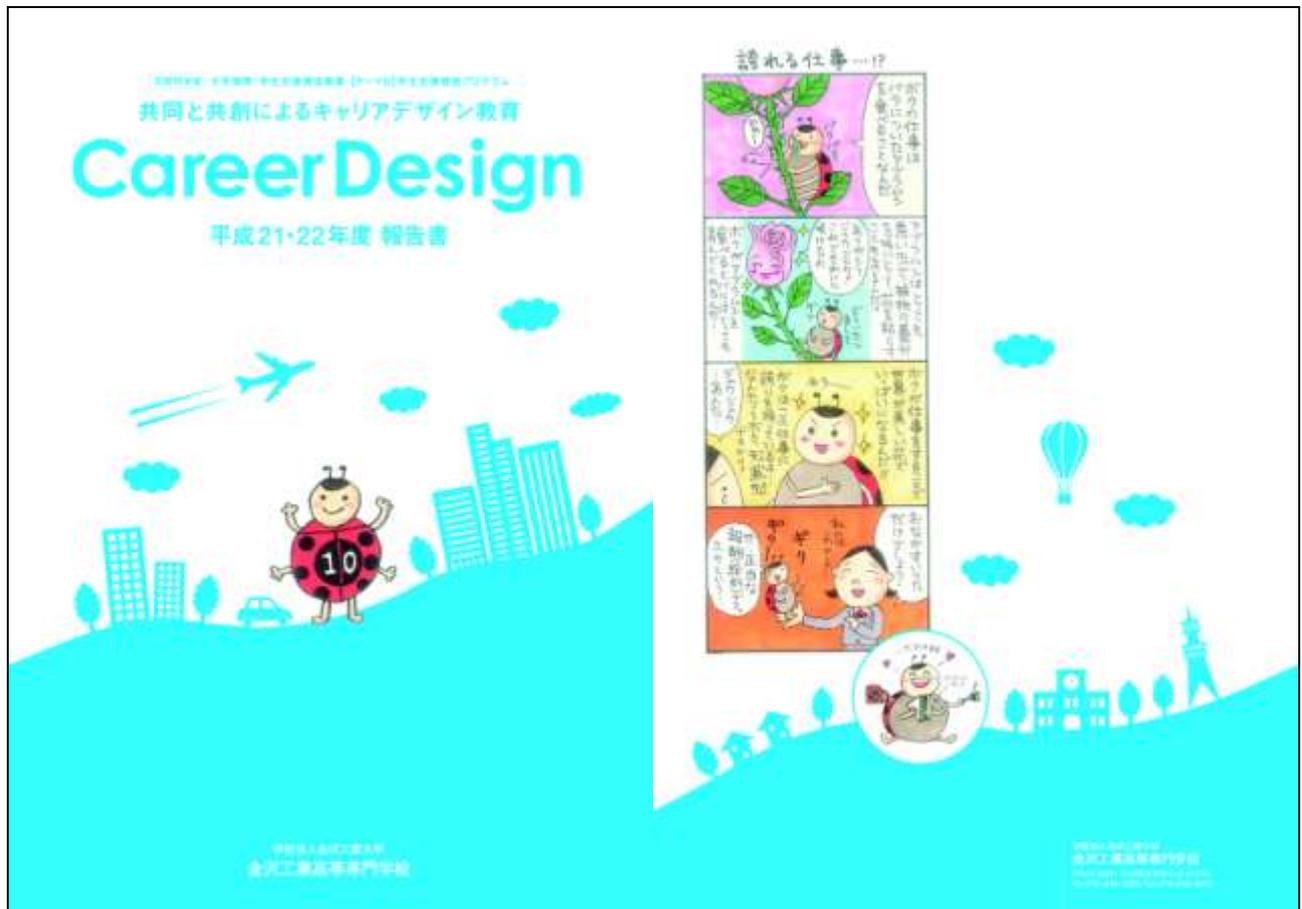
2 事務局は、会議の議事録を作成し、議長の確認を得た後これを保管する。

附 則

1 この規程は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。なお本規程の施行により従前の進路指導委員会申合せは廃止する。

(出典 学校法人金沢工業大学規則集)

キャリアデザイン教育報告書



(出典 キャリアデザイン教育資料)

教員会議議事録

平成 23 年度 第 1 回 教員会議

日 時：平成 23 年 3 月 29 日（火）10:00～

場 所：高専合同講義室

- ・ 新任教員紹介 New Teachers Introduction
- ・ 兼任教員・非常勤教員紹介 # #
- ・ 学務委員紹介 Administrators Introduction
- ・ 校長挨拶 Greetings

案件

I 連絡事項 REPORTS

- 1) 平成 23 年度校務分担 Committee Assignment
- 2) 平成 23 年度学年暦ならびに 4・5・6 月行事予定 College Schedule 2011
- 3) 平成 23 年度当初行事 Schedule for the first week
 - 特別活動予定
 - オリエンテーションスケジュール
 - 入学式要領
 - 対面式・始業式・着任式要領
 - 1 年 HR 概要、2～5 年 HR 概要
 - クラス写真撮影要領
 - 定期健診実施要領
 - 教職員集合写真
- 4) 授業について On Classes
 - 授業変更の届出・記入方法
 - 学習指導に関する実施規程
 - 出席簿記入要領・出欠情報入力要領
 - 平成 23 年度過年度未修得科目所持学生の指導方針
 - O P 留学終了学生・出発学生
- 5) 学生係の目標と活動 Information from the office of Students Affairs
 - 平成 23 年度学生係目標
 - 電話当番・遊視当番
 - 旗当番・特別区域清掃
 - 各種手続きと担当
- 6) 進路指導 Career Placement
 - キャリアデザインの予定

7) 安全管理 Safety Information

- 安全活動計画

8) 教育成果報告会等について Educational Outcome Presentation

- 教育成果発表会開催案内
- 「創造技術教育」論文集原稿募集
- 平成 22 年度教育改善への取組と今年度の成果報告の提出
(平成 22 年度の教育改善に関する自己点検評価)
- 平成 23 年度教育改善への取組と今年度の目標の提出
- 認証評価受審に伴うアンケート調査

9) 事務局所管業務関係連絡 Information from the Administration Office

- 教室の机・椅子の移動

次回教員会議 NEXT MEETING

第 2 回 平成 23 年 4 月 22 日 (金) 16:20～ 高専会議室

April 22nd

*主事・科長・主任・副主事・副主任および昇任された先生は、3月31日(木)午前9時10分から1.110室にて辞令交付式があります。9時までに1.110室にお集まり下さい。

*新任の先生は、4月1日(金)午前8時40分から1.110室にて辞令交付式があります。8時30分までに1.110室にお集まり下さい。

*常勤教職員の方は、4月2日(土)午前8時20分にプラザにお集まりください。教職員の集合写真撮影を行います。非常勤の方もご参加いただければ幸いです。

以上

(出典 教員会議資料)

KTC 教育評価委員会規程

○KTC教育評価委員会規程

(平成11年4月1日施行)

改正 平成16年4月1日

(委員会の目的)

第1条 この規程は、管理規則第4条第1項第3号ロに定めるKTC教育評価委員会（以下「委員会」という。）について、必要な事項を定める。

(委員会の設置)

第2条 委員会は、金沢工業高等専門学校（以下「本校」という。）が実施する教育活動全般についての自己及び外部点検評価の結果を確認することで、建学の精神に基づく教育活動の活性化となお一層の教育改革の推進に資することを目的とする。

(委員会の役割)

第3条 委員会は、次の者を委員として構成する。

- (1) 教務主事及び研究主事
- (2) 学科長
- (3) 校長が指名する者
- (4) 事務局長

2 教務主事は、委員長となり会務を主宰する。

(委員会の運営)

第4条 委員会は、委員長が招集し議長を務める。

2 議長は、必要があると認めるときは、構成員以外の者の出席を求め意見を聴くことができる。

3 前項の規定にかかわらず、校長は、随時、委員会に出席することができる。

4 委員長は、委員会で審議した事項を十年委員会に報告するため、委員会報告を取り纏め校長に提出しなければならない。

5 委員長は、委員会報告を校長に提出するにあたり、本校の各種委員会との円滑な連携を図るため、事前に報告内容について学務会議の同意を得なければならない。

(委員会の事務)

第5条 委員会の事務は、事務局が行う。

2 事務局は、会議の議事録を作成し、議長の確認を得た後これを保管する。

附 則

1 この規程は、平成11年4月1日から施行する。

2 この規程は、平成16年4月1日から改正施行する。

(出典 学校法人金沢工業大学規則集)

KTC 教育評価委員会議事録

2011.5.9

平成23年度 第1回KTC教育評価委員会 摘録

日時：5月9日（月）17：20～

場所：会議室

出席者：大原しのぶ、木原 均、直江伸至、藤島 悟志、伊藤恒平、元木光雄、山岸 徹、松本裕
CS室（下津 竜之）

議題：

1. 年間スケジュール

(1) 基本的に昨年と同様に実施する。

(2) 異なる点は、以下の3点である。

ア 第1回FD研修会→小島プレスと連携して実施

イ 認証評価準備→自己点検評価書を作成する必要がある。

ウ 第2回FD研修会→土曜日に実施していたが、金曜日の夜に実施する。

(3) 年間スケジュールの概要説明

4月：平成22年度教育改善と抱負提出：実施済み。締め切りの注意喚起が必要。

新入生アンケート 実施済み

5月：教育成果報告書冊子製本中。近日中に完成予定。

FD研修内容及び日程等検討

第1回：7月27日（木）、28日（金）1泊2日池の平セミナーハウスを予定していたが、小島プレスとの連携で、場所及び日程とも変更になる可能性大。小島プレスからの返答を待つて、再度審議願いたい。

第2回：11月25日（金）内容や実施要領等について、案が出来た段階で審議願いたい。

7月：FD研修会→小島プレスの協力が得られれば、企業と教育側との認識の差や、問題の改善方法等に関して、新たな知見を得られる機会となる。

アンケート調査（インタビュー結果も）結果報告会…FD研修会で実施

9月：アンケート週間（各自でアンケートを実施）

10月：授業参観（教務委員会）→分析結果をもらう→授業改善につなげる

第2回FD研修テーマ、グループ、スケジュール等検討

11月：授業アンケート科目独自設問L～Q提出

：FD研修会〔グループ討議〕→授業改善、学生環境整備につなげる

教育成果報告会発表者選考及び開催案内（中学校、学園内メール、本校ホームページ）

学生に対するインタビューによる聞き取り調査

2月：アンケート週間：授業アンケート、総合アンケート、教職員アンケート

3月：教育成果発表会→授業改善につなげる

（発表論文集を作成→中学校訪問の際に持参→学生募集につなげる）

授業アンケート速報版配布（できたら自由記述も）

平成22年度教育成果報告書提出（3/31〆切）

2. CS室との意見交換

下津氏から、アンケートに関する説明があり、必要であれば改善していく旨の発言があったが、会議の席では、質問等はなかった。

3. 文部科学省選定：大学教育・学生支援推進事業

テーマA（大学教育推進プログラム）…「5年一貫の工学・英語協同学習とFD活動」3年目

テーマB（学生支援推進プログラム）…「共同と共創によるキャリアデザイン教育」3年目

4. 認証評価：7年に1回（H17審査→H18/3認定書）

H24審査とするとH23に過去3年分の自己点検評価書を作成する必要がある。細部の要領は、今後詰めていく。

5. 議事摘録

委員からは、特に、FD研修会に小島プレスが参加することについて、質問があった。

質問1 小島プレスという特定の企業とだけ、このような研修会を実施するのでは、得られる知見が偏るのではないか。

回答1 今回は最初の機会であり、今後とも他企業の協力を得て、このような機会を設けていく。

質問2 実施場所が小島プレスとなる場合、研修場所や宿泊はどうするのか。

回答2 小島プレスの研修所で、研修及び宿泊が可能と聞いている。質素な研修所と聞いており、問題はないと考えている。

(出典 KTC 教育評価委員会資料)

国際交流委員会規程

○国際交流委員会規程

(平成4年5月1日施行)

改正 平成10年4月1日

(設置)

第1条 学校法人金沢工業大学(以下「本学園」という)に国際交流委員会(以下「委員会」という)をおく。

(目的)

第2条 委員会は本学園が、外国との学術・研究及び文化交流を円滑に行うため理事長の諮問に応えることを目的とする。

(構成)

第3条 委員会は理事長が任命する次の委員で構成する。

- (1) 委員長 常務理事
- (2) 委員 金沢工業大学学長
- (3) 委員 金沢工業大学副学長
- (4) 委員 金沢工業高等専門学校校長
- (5) 委員 企画部長
- (6) 委員 その他委員長が必要と認めた者

(小委員会)

第4条 委員会は、小委員会として国際交流工大委員会、国際交流高専委員会並びに必要なに応じて専門小委員会をおき、次の企画及び検討を行う。

- (1) 学校間の協力協定に関する事
- (2) 他機関との研究協力に関する基本的な協定に関する事
- (3) 他大学との学生交換に関する基本的な協定に関する事
- (4) 他大学との単位互換に関する基本的な協定に関する事
- (5) 外国人学生の受入れに関する基本的な規則制定に関する事
- (6) 外国人研究員の受入れに関する基本的な規則制定に関する事
- (7) 外国人に対する日本語教育等の指導に関する事
- (8) 法人として対応すべき外国との交流に関する事
- (9) その他、理事長が諮問した事

(事務局)

第5条 委員会の事務は、企画部国際交流室が担当する。

附 則

- 1 この規程は、平成4年5月1日から施行する。
- 2 この規程は、平成10年4月1日から改正施行する。

(出典 学校法人金沢工業大学規則集)

国際交流高専委員会議事録

平成23年度 第1回国際交流高専委員会

議事録

日時：平成23年5月23日（水）17:00～17:30

場所：校長室

出席：南出、直江、伊藤、元木、向井、タイロード、D、山岸、宮西、松下（書記）

欠席：山田

配布資料：①平成23年度ニュージーランド（オタゴ・ポリテクニク）留学 奨学金応募学生修学状況

②平成21年度OP留学生 模擬TOEIC 取得点数表

③平成22年度OP留学生 模擬TOEIC 取得点数表

④平成22年度OP留学 成績証明書（応募学生分のみ）

⑤保護者収入証明書類（応募学生分のみ）

1. 協議事項

1. 平成23年度 海外インターンシップ参加学生選抜

- (1) ニュージーランドに約3週間、5年生2名、4年生2名で募集。

応募学生は以下の通り

D5

C4

C4

C4

C4

・5年生の応募学生は、[]のみで海外留学経験もあり、5年生一人でも問題はないため決定とする。なお、5年生は単位には関係ない。

・OP留学中、[]はリーダーシップを発揮していた、[]はおとなしい学生だが、今回はとても強い意志で参加を希望している。しかし、[]は海外インターンシップをしたい、というよりもNZに行きたいという思いの方が強く感じられる。

・模擬TOEIC成績は []
[] OP成績トップは []

・今回の海外インターンシップは、いろいろな学科から参加させ、また意志の強い学生、TOEIC、ならびにOPでの成績を考慮して、[]
4名と決定する。

2. 平成23年度オタゴ・ポリテクニク（OP）留学の奨学生選抜（2名）

- (1) 19名中、8名の応募、T3： []

M3 []

G3 []

- (2) 奨学生の選考として、2年生終了時の成績が一ヶ台に絞り、日ごろの生活・学習態度、保護者の収入を総合して考慮した結果、[] と [] と決定した。

(出典 国際交流高専委員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

教育活動に係る重要事項は、学務会議において教育研究の質的向上に関する企画立案が行われ、それを教務委員会、厚生補導委員会、進路指導委員会が具体的に検討し、展開している。最終的な審議機関として学務会議で重要事項が審議されている。その他、自己点検評価や国際交流の重要事項についてKTC教育評価委員会及び国際交流高専委員会で審議されている。以上のことから教育活動等に係る重要事項を審議する等の必要な活動が行われている。

観点2-2-②： 一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携が、機能的に行われているか。

(観点に係る状況)

学務会議、教務委員会など各委員会は、一般科目及び専門科目の代表者で構成され、組織的に教員間の連携が取れるように努めている。教員間の連携を図るために、教育成果発表会の開催や、FD研修会で一般科目と専門科目の連携をテーマとした検討会を開催している(資料2-2-②-1：教育成果発表会、資料2-2-②-2：平成22年度第1回金沢高専FD研修会議事録)。

教育成果発表会

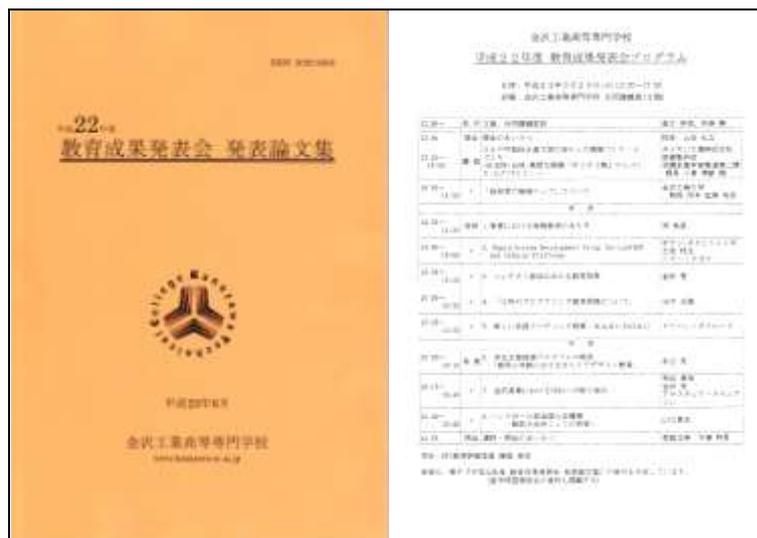
金沢工業高等専門学校
平成 22 年度 教育成果発表会プログラム

日時：平成 23 年 3 月 29 日(火)13:00～17:00
会場：金沢工業高等専門学校 合同講義室(3 階)

12:50～	受付 3 階、合同講義室前	道江 紗玉、村森 穂
13:00	開会 開会のあいさつ	校長 山田 弘文
13:10～ 14:00	講演 ひとの可能性を最大限に活かした職種づくり・人づくり - 自主性・元気・果敢な挑戦「今こそ『真』の人づくり・ものづくり」 -	ダイキン工業株式会社 総務製作所 空調生産本部製造第二課 課長 小倉 博敏 様
14:00～ 14:25	* 「技術者の職業マップ」について	金沢工業大学 教授 岡本 隆俊 先生
休 息		
14:30～ 14:50	発表 3. 高専における物理教育のあり方	原 幸美
14:50～ 15:05	* 2. Rapid System Development Using the LabVIEW and Arduino Platform	ボラジ・オダントインボ 土池 邦生 ハヤシ、オダリ
15:05～ 15:20	* 3. コンテスト参加における教育効果	金岸 青
15:20～ 15:35	* 4. 「G 科のプログラミング教育課題について」	元木 光雄
15:35～ 15:50	* 5. 新しい英語リーディング授業：RAKUDOKU	ドリーナ・ガイロード
休 息		
16:00～ 16:15	発表 6. 学生支援推進プログラムの報告 「協同と共創におけるキャリアデザイン教育」	新山 晃
16:15～ 16:40	* 7. 金沢高専における CDIO への取り組み	南出 晋伸 金井 亮 アナスタシア・ライニアン
16:40～ 16:55	* 8. ハンドボール新全国大会優勝 - 創部 5 年目にしての快挙 -	山口真央
16:55	閉会 謝辞・開会のあいさつ	教務主事 今澤 明男

司会：ETC 教育評価委員 藤島 悟志

併発日、電子『平成 22 年度 教育成果発表会 発表論文集』の発行を予定しています。
(留学帰国報告会の資料も掲載する)



(出典 教育成果発表会資料)

平成 22 年度第 1 回金沢高専 FD 研修会議事録

平成 22 年度 第 1 回 金沢高専 FD 研修会
グループ討議 議事録

- 【日 時】平成 22 年 7 月 23 日（金）9:50～11:45
 【場 所】金沢工業大学 池の平セミナーハウス
 【参加者】（一般教科担当）瀧本明弘、原孝美、木原均、山崎梓
 （グローバル情報工学科）谷合泰司、今澤明男、田村景明、
 坂倉忠和、中沢政幸、中野真
 （事務局）田村清
 【議 題】①一般科目と専門科目の連携について
 ②アンケート調査結果について

【議事要旨】

①一般科目と専門科目の連携について

(1)一般教員側からの提案・要望

- ・学科会議に参加し、一般教科への要望を聞き、踏まえた内容を実施することで連携はより密になるのではないかな。
- ・学生は数学が重要であることは分かっている。具体的に専門のどの分野で、（どの科目で）利用されているかが分かればもっと理解できるのではないかな。利用例なども提示できるのでより理解が深まるのではないかな。

(2)専門（グローバル情報工学科）からの提案・要望

- ・就職試験に結びついている SPI での数学の範囲を実施して頂くと有難い。さらにじっくり解くのではなく、速い速度で解くような内容であればさらによい。

(3)その他討議について（○：問題提起・提案、→：対する意見など）

- SPI に特化してしまうのも良いが、就職後は SPI だけで就業に支障はないのか。
→就職後に役に立った科目は理科系の一般科目というアンケート結果がある。必要であることには間違いない。
- 発達障害が在学中、あるいは卒業後において、何らかの対応を実施しているか。
→実施はしていない。
→保護者は長く高専で教育することで就職できるのではないかなという考えがあるのではないかな。（保護者との連携が必要）
- 数学では分数、少数が理解できないレベルや計算を楽にするといった発想がない。
→問題の数をこなしていない。
→四則演算のルールが分かっていない。
→今年からは高専の教科書から高校の教科書に変更し、情報の内容に比べられるようにしている。
→小学校から絵ばかりの教科書に慣れており、高専に入って活字だけの教科書を拒絶している。
- 学科の内容が把握できず、例えばインターンシップの見回や就職の挨拶で、学科のことがわからず挨拶や会話に困ることがある。
→会議は呼んでもらわないと入りづらいということもある。
→会議でだけではなく、授業に参加、あるいは参観して何をしているのか把握するのも良いのではないかな。
→学科のイメージが分かれば対応しやすい。内容は同じでも学科ごとに費やす時間を調整するのは十分可能である。

→交流できる部分はいくつもあるので、今後検討していく。

②アンケート調査結果について

(1)その他討議について

- 女子が単独で入ることができる部活がない。某高校のように女子はソフトボールしかないものの全国大会に出場している例もあり、なんとかする手立てはないか。
 - 結局は指導者によることが多い。
 - バドミントンは女子が多く、女子バドミントンとして実施してはどうか。
- ニュージーランド帰国者のモチベーションが低くなっているのではないか。
 - 昨年度の卒業生は帰国後も様々なことでモチベーションが高く良かった学生が多かった。
- ノートを取らない学生が多い。
 - 本来はノートを取って欲しいが、ついついプリントを配ってしまう。
 - ノートを取らない学生はやはり成績が振るわない場合が多く、取らなければ成績は落ちていく。
- 授業を聞いていなく、「今どこですか」という発言が多い。
- 習熟度別の授業として、学科を超え複数の教員で同じ時間担当することはできないか。
 - 成功例がほとんどない。実施にあたって難しい。
- 短い文章での問題を解く、これを繰り返すというのは、非常に効果がある（実施はできるが現在の内容を削る必要がある）。
 - 過度の負担がかからない程度での実施は検討の余地がある。
 - 漢字やSPIなどは良いかもしれない。
- 発達障害のある学生が金沢高专に来ている。
 - 偏った分野でのみ頑張る傾向がある。
 - 偏ってはいても頑張っているのは良いことではないか。
- 低学年から専門の科目をもっと入れて欲しいとあるが実際には実施しているのになぜこのような結果になるのか。
 - やはりやりたいと思っているはず。
 - 例えば電子計算機部ではほとんどの学生がゲームを作りたいという希望を持っている。
 - 情報＝ゲームという学生が意識を持っているのは確かと感ずる。
- 部活動の活性化について、今年は積極的に活動している1年生が多く好ましい状況である。
 - 来年度の成績は期待できるのではないか。

(出典 FD 研修会資料)

カリキュラムの支柱に創造実験・創造設計科目群を配置し、この科目の中で一般科目と専門科目の連携を図っている（資料2-2-②-3：カリキュラムの基本構成）。具体的には各学科を中心に、支柱となっている科目群の理解が容易なようにカリキュラムの基本構成に従って科目構成すると共に、必要に応じて一般科目の内容を調整・補填している。その他、数学・理科の担当教員に工学系の大学・大学院の卒業・修了者を採用し、特に数学・理科の授業で、数学・理科と情報、機械のつながりを教えることで、専門科目を深めていく上での一般科目の必要性を意識させるなどの連携が図れるようにしている（資料2-2-②-4：ティーチングスタッフ2012）。

文部科学省平成21年度大学教育・学生支援推進事業に選定された5年一貫の工学・英語協同学習とFD活動（以下CLE²）は、ものづくりと英語を主体とした専門工学教育を融合させた教育で、一般科目

と専門科目の連携を深め、相乗的な教育効果を期待するものとして、数学・理科と工学の専門科目、英語と工学の専門科目の科目間、教員間の連携を推進している（資料 2-2-②-5：CLE²実施体制、資料 2-2-②-6：時間割）。

資料 2-2-②-3

カリキュラムの基本構成

(1)カリキュラムの基本構成

本校は、「21世紀を担う、心豊かで、創造性にあふれたエンジニアの育成」を教育目標として、金沢工科大学園の施設や組織、また関係教職員との有機的な連携のもとに、教育研究活動の充実発展を期しています。

本校の教育体系は、図1の通り、縦軸(学年を含む)と横軸(教育目標の区分や学園との連携を含む)を考慮し、スパイラル構造(反復しながらレベルアップ)で構成されています。縦軸の教育とは、「創造実験・創造設計」を主柱としたものづくり教育で、一般教育と専門教育の連結を強化し「創造性」を醸成する牽引力となるものです。横軸の教育とは人材育成の教育であり、「コミュニケーション能力」や「自己実現力」を学年ごとに高め「人間力」を醸成する人間教育と技術者としての人間性を養成する専門教育です。これらの教育を実施する学年腐があります。

具体的なカリキュラムの全体像は、図2の「金沢高専のカリキュラム全体像」の通りです。創造実験をものづくり教育の主柱として、これを支える一般教育と専門教育を「楔形」に組み合わせることで、本校の教育実践目標を達成するものです。

図1.金沢高専がものづくり教育で目指す「人間形成教育」と「創造的技術者育成教育」

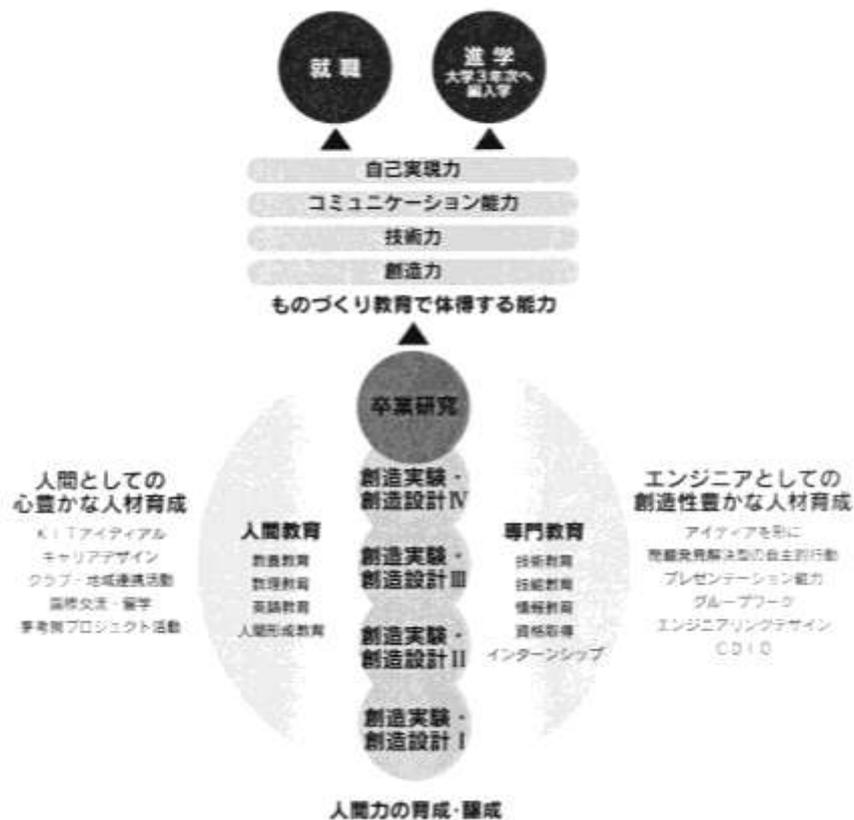
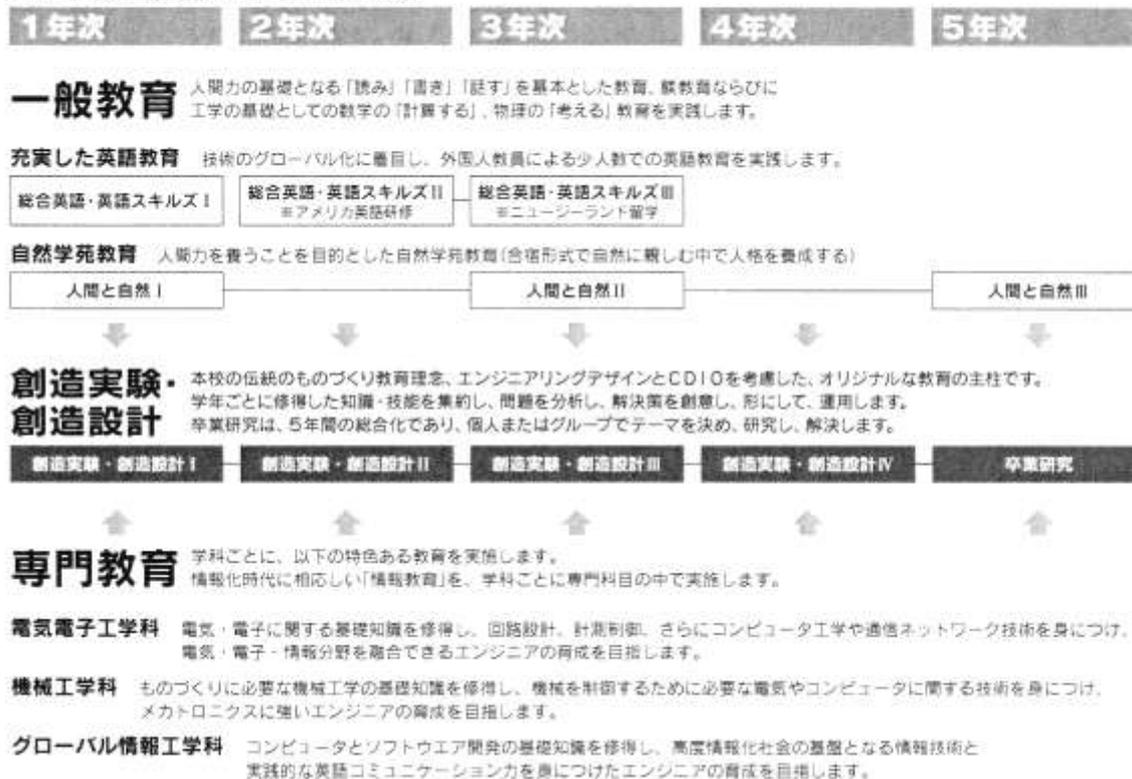


図2.金沢高専のカリキュラム全体像



人間教育は、教養教育、数理教育、英語教育並びに人間形成教育で構成しており、学年とともに高度化される内容になっています。専門教育は、技術教育、技能教育、情報教育、資格取得及びインターンシップから構成されています。

一般教育では、人間力の基礎である「計算する」「読み」「書き」「話す」の4つを基本とする教育に視点を置いています。特に、エンジニアの基盤の顕在化を助長するため、工学の基礎である「数学」と「物理」の基礎力の充実を目指しています。「話す」についてはグローバル化時代を視野にいった国語力の強化と、外国人教員による英語の少人数教育を実施し、「英語によるコミュニケーション能力の向上」に力を注いでいます。

「人間形成」を教育の根本理念とする本校は、「自然学苑教育」を人間教育の主要科目として必須化し、仲間と寝食を共にする合宿教育を行い「人間力の涵養」に努めています。

専門教育では、積み上げ式の創造実験・創造設計を教育の中心とした、教育体系を構築しています。ものづくりと専門教育を組み合わせることによって、学生の知識の深化に応じた問題発見・解決能力の発掘を図ります。各創造実験・創造設計では、エンジニアリングデザイン手法とデザインシンキング手法を独自の観点で取り込むと共に、CDIO教育理念：①「正しく考える」②「設計する」③「実行する」④「運用する」の要素を修得できるよう基準を再編成し、図3に示す2020年代の実践的な技術者に必要な資質の養成を目指します。

(出典 学生便覧 2012 P.10-11)

ティーチングスタッフ 2012

道路指導主事・准教授・博士(情報科学)

木原 均

Hitoshi Kihara

■担当科目

微分積分Ⅰ・Ⅱ

■略歴および専門分野

水巻町立水巻南中学校(福岡県)出身

広島大学学校教育学部中学校教員養成課程卒。北陸先端科学技術大学院大学情報科学研究科博士前期課程修了。北陸先端科学技術大学院大学情報科学研究科博士後期課程修了。北陸先端科学技術大学院大学研究員、研究生を経て、平成20年8月本校講師就任。平成24年准教授。専門は数理論理学。博士論文「Substructural Logics - algebraic study」で学位取得。

■情報

学生たちの素朴な疑問や問いかけを大切にしており、常に笑顔をつれないように心がけている。中学時代は勉強嫌いだったが、今では教える立場となり、学生には自信を持ってもらいたいと考えている。

■趣味

ドライブ、将棋

■近況

金沢は山や海が近く、また文化や歴史が深いので、毎日とても楽しく過ごしています。

准教授

松本 昇久

Norihisa Matsumoto

■担当科目

数学特論、基礎数学Ⅱ、微分積分Ⅱ

■略歴および専門分野

内灘町立内灘中学校出身

金沢大学理学部数学科卒。北陸先端科学技術大学院大学博士前期課程(情報科学)修了。同博士後期課程中退。平成16、17年石川県立内灘高等学校常勤講師、平成17年石川県立中央高等学校非常勤講師を兼務。北陸学院高等学校教諭を経て、平成19年本校講師就任。平成22年准教授。専門は多様体、計算幾何学、アルゴリズム。最短経路探索に関する研究に従事。

■情報

学部のところは合唱団に所属していたが、ステージ上で歌うだけではなく、演劇にまで駆り出されているらしい。普段の様子と役を演じている様子があまりに異なるため、同じ人とは思えないと言われたことも。

■趣味

特にありません。

■近況

少しでも数学に興味を持てるように教えることはできないかと悩みながら、日々を過ごしている。数学が単なる計算方法ではなく、抽象世界と現実世界をつなぐための便利な道具であることを伝えたい。

道路指導主事・教授・工学博士

高橋 丈雄

Takeo Takahashi

■担当科目

流体力学、応用物理Ⅰ・Ⅱ

■略歴および専門分野

杉並区立中瀬中学校(東京都)出身

防衛大学校応用物理学科卒。防衛大学校理工学研究科(物理工学)修了。大阪大学研究生。防衛大学校教授。防衛研究所総括主任研究官。陸上自衛隊研究本部主任研究開発官を経て、平成23年本校教授就任。専門は燃焼工学。「乱流予混合火炎の挙動と構造に関する研究」で学位取得。

■情報

私のモットーは「未来予測は、技術予測から」。1952年に2003年4月7日生まれを想定して放談された録音アトム。そして、今のロボット技術といえば、推して知るべし。高専生が、豊かな創造性を発揮して「ものづくり」に挑戦し、未来に活躍できるエンジニアをめざして力を磨けるよう手助けしたい。

■趣味

ドライブ

■近況

歴史と伝統の地。金沢での勤務も1年が経ちました。

助教

谷口 航

Kou Taniguchi

■担当科目

物理・化学Ⅰ・Ⅱ

■略歴および専門分野

田鶴浜町立田鶴浜中学校出身

東海大学工学部土木工学科卒。石川県立羽咋工業高等学校、石川県立工業高等学校臨任講師を経て、平成22年本校助教就任。

■情報

普段はマイペースだが好きな事にはこだわる。授業は厳しく、授業以外では楽しく。

■趣味

車(ドライブ)、スポーツ、音楽鑑賞

■近況

近年、体脂肪が増加し始めているので、定期的な運動を心掛けている。

(出典 学生便覧 2012 ティーチングスタッフ 2012)

CLE²実施体制



(出典 CLE² ウェブサイト)

時間割

Table with 16 columns (月, T1, M1, G1, T2, M2, G2, T3, M3, G3, T4, M4, G4, D5, M5, C5) and 8 rows of class schedules.

Table with 16 columns (火, T1, M1, G1, T2, M2, G2, T3, M3, G3, T4, M4, G4, D5, M5, C5) and 8 rows of class schedules.

Table with 16 columns (水, T1, M1, G1, T2, M2, G2, T3, M3, G3, T4, M4, G4, D5, M5, C5) and 8 rows of class schedules.

Table with 16 columns (木, T1, M1, G1, T2, M2, G2, T3, M3, G3, T4, M4, G4, D5, M5, C5) and 8 rows of class schedules.

Table with 16 columns (金, T1, M1, G1, T2, M2, G2, T3, M3, G3, T4, M4, G4, D5, M5, C5) and 8 rows of class schedules.

- D科卒業研究: 直江・松本(裕)・南出・土地・藤島・諸谷・柳橋・オガワ
M科卒業研究: 伊藤・杉森・天日・松井・秋山・金井・小間・林
C科卒業研究: 坂倉・今澤・藤澤・館・ソングー

- 英語科: I: イアン, F: オプス, L: ロベス, Le: L, Lu: ルー, N: ノルトン, O: オガワ, B: ボラジ
T・D科: O: オガワ
M科:
G・C科: Gb: ブルス, S: ソングー

Color-coded legend for subject types: 一般科目(外国人), 電気電子(外国人), 機械(外国人), グローバル情報(外国人), 英語科(日本人), グローバル情報(日本人)

(出典 教務委員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

一般科目と専門科目が連携したカリキュラム構成となっており、カリキュラムを運営するために学務会議をはじめとした各委員会などが組織され、かつ連携に関するFD研修会を行うなど、一般科目と専門科目の教員間、科目間の連携が機能的に行われている。特に、平成21年度の学科改組以前は、創造実験・創造設計科目群で数学や物理の一般科目と専門科目の連携にとどまっていたが、CLE²の導入により英語科目と、専門科目の科目間、教員間の連携が深まった。

観点 2-2-③： 教員の教育活動を円滑に実施するための支援体制が機能しているか。

(観点に係る状況)

本校では全学級に学級担任が配置され、学生の学習のみならず生活指導を含め、学生生活全般を指導する体制をとっている(資料 2-2-③-1：平成24年度学級担任一覧)。1年生の副担任は学科長が担当し、学校に不慣れな新入生の指導を学級担任と共に行っている。学生が4年から5年への進級時に、学級担任は努めて持ち上がりとし、学生の資質を十分に把握しつつ、4年次のインターンシップと連動した就職指導を推進するなど、円滑な進路支援が行える体制を整えている。また、状況により5年生の学級担任を終えると、次年度の5年生のサポートを行うことができるよう配慮している。

校長は学級担任を支援するために必要に応じて各種委員会による支援を奨励すると共に、学級担任・副担任業務と学年毎の心構えを作成し、年度始めの担任会議で説明している(資料 2-2-③-2：学級担任・副担任業務、資料 2-2-③-3：学年担任会議資料)。また、教員の居室は努めて共用教員室形式を採用して、教員間のコミュニケーションを図り易くすると共に、新任教員のOJTの場としている(資料 2-2-③-4：合同教員室一覧)。

資料 2-2-③-1

平成 24 年度学級担任一覧

学年	電気電子工学科	機械工学科	グローバル情報工学科
1	谷口 航(直江 伸至)	金井 亮*(伊藤 恒平)	山崎 梓(元木 光雄)
2	宇都宮 隆子(松本 裕)	林 道大(天日 三知夫)	藤澤 武*(田村 景明)
3	木原 均(柳橋 秀幸)	原 孝美*(松井 洋)	瀧本 明弘(今澤 明男)
4	諸谷 徹郎*(山口 真史)	秋山 晃(杉森 勝)	館 宜伸(松本 昇久)
5	土地 邦生(藤島 悟志)	小間 徹也(宮野 純光)	坂倉 忠和*(高橋 丈雄)

注:()学級副担任、*:学年主任

(出典 教員会議資料)

学級担任・副担任業務

平成 24 年 3 月 28 日

教務主事

学生主事

学級担任・副担任業務

● 日常業務

- (1) **始業前**（または午前中）、教務室ホワイトボードに掲示されている欠席電話連絡用紙を確認し、出席簿に記入。（記入方法は別資料「出席簿記入・集計要領について」を参照）
- (2) **日中**、学生の出席、遅刻、早退を管理する。毎日、教務室に掲示してある「電話欠席届」を確認し、押印またはサインする。また、「出席扱い願い」（公欠）を確認し、押印またはサインする。無断欠席がある場合は、必要に応じて保護者に電話連絡をする。学生の怠業や非行を防止するために、できるだけ早めに対処することが望ましい。
- (3) 伝染病の罹患で学生が欠席した場合は、後日診断書（病院書式）または病欠証明書（本校書式、事務局在中）を提出させ、「学校伝染病による欠席の申し出について（報告）」を作成し、診断書等を裏面に貼付け、教務主事まで提出する。
- (4) **放課後**、清掃を指導する。学生に自分の持ち物の管理能力を付けさせるため、教室の机上および引出の中、ロッカーの上等には教科書などを置かないように日頃から指導されることが望ましい。（クラスが担当する清掃区域は2カ所。担任：教室、副担任：特別清掃区域）
- (5) **国旗・校旗掲揚、降納の担当期間**、その期間中における指導を行う。
（クラス担当期間は学生係資料参照）
- (6) 学事システムに、公欠、伝染病による欠席等の入力をし、**出欠情報を確定**する。1日を単位として1週間以内に行なう。
※交通機関の乱れによる公欠は教務係から連絡のあったもののみ認めてください。
- (7) 担当クラスの学生の修学状況・生活状況に気を配り、必要に応じて支援する。特に問題があると判断した場合は、まず学科長・副担任と連携して指導に当たる。（問題が発生した場合、発生しそうな場合は、ひとりで問題を抱え込まず、必ず科長または主事に相談し、複数の教員で対処する。）

● 月別業務（主なもの）

3月（新年度関連業務のみ掲載）

- (1) 新年度の配布物の準備（内容に関しては3月末の教員会議にて案内）
- (2) 新教室の点検、破損等があれば事務局へ報告
- (3) 新教室の座席数・配置、ロッカーなどの確認
- (4) 新教室の座席表作成（前期初めは原則として出席番号順）（廊下側一番後ろから前へ）
- (5) 週番・清掃当番表作成と掲示

4月

- (1) 対面式・始業式での出席管理
- (2) 始業式終了後のホームルーム運営（詳細は別途）
- (3) [1年のみ]穴水研修引率
- (4) オリエンテーション期間中のホームルーム運営
- (5) 家庭調査書、自転車通学届け、下宿届けなどの回収
- (6) 部活動登録票の配布と回収
- (7) 留年学生面接指導
- (8) 過年度未修得科目所持学生面接指導と必要な場合は保護者への連絡
- (9) その他学生の面接指導

5月

- (1) 校内体育祭での出席管理
- (2) 育友会総会とその後のクラス懇談

6月

- (1) [4年のみ]インターンシップ準備および調整

7月

- (1) 夏期休業期間の注意と資料配付
- (2) 前期中間試験成績の学生への配付、成績不良の学生には保護者への連絡と面接指導
- (3) [3、4年のみ]企業見学引率（詳細未定）
- (4) [4年のみ]インターンシップ指導（8月も）
- (5) 過年度未修得科目所持学生面接指導と必要な場合は保護者への連絡

8月

- (1) [5年]人間と自然Ⅲ（池の平自然学苑研修）引率
- (2) [4年のみ]進路説明会

9月

- (1) [4年のみ]インターンシップ報告会
- (2) [3年のみ]人間と自然Ⅱ（穴水湾自然学苑）引率
- (3) [4年のみ]修学旅行関係準備作業

10月

- (1) 高専祭での出席管理
- (2) 個別面談
- (3) 個別面談欠席者への前期通知表の発送
- (4) 留年学生面接指導
- (5) 前期成績不良者面接指導
- (6) [4年のみ]修学旅行関係準備作業

11月

- (1) [4年のみ] 修学旅行引率
- (2) [1、2年] 企業見学引率（詳細未定）
- (3) 校内球技大会での出席管理

12月

- (1) 冬期休業期間の注意と資料配付

1月

- (1) 後期中間試験成績の学生への配付、成績不良の学生には保護者への連絡と面接指導

2月

- (1) 春期休業関連注意と資料配付

3月

- (1) [4年のみ]キャリアデザイン（穴水湾自然学苑）引率
- (2) 皆勤賞、優等賞の選定
- (3) 学年末通知表の発送
- (4) 留年決定者・復学予定者の指導
- (5) 終業式、卒業式での出席管理
- (6) 厚生補導情報（委員、性格など）の端末入力
- (7) 指導要録確認と押印

その他

- (1) 各種学校行事・特活における出席管理
- (2) キャリアデザイン実施
- (3) 学生の学習ならびに生活状況の把握および指導と助言

以上

（出典 担任会議資料）

学年担任会議資料

24.3.

24年度第1学年クラス担任会議

校長

1、 全般

- ・鉄は熱い内に鍛える。(最初が肝心→指導結果が最後まで残る。)
- ・担任教員は、高専教育の推進者
- ・入学者を卒業まで持つて行くつもりで指導する。
- ・優しさや親身の指導と馴れ合いとは異なる(心をこめた厳しさが必要)。
- ・「形」(服装、態度、挨拶、言葉遣い、清掃、)を覚えさせる。

2、 担任の心構え

(1) 学生の指導

- ・FD成果の活用(教師塾:統御→統率)、(教師学:私思考)。
- ・大観小察(学生の目標を技術者に向ける、全般を俯瞰し判断する)
- ・担任は学生の味方、校長は全体の敵
- ・厳しさの奨励(怒りの叱責や心ない一言は、学生の心を傷つける。)
- ・転科は、1年次完全修了後に、試験をして合格した場合に認める。
- ・話はなるべく「要点を明らかにし、短く話す」習慣をつけさせる。

24.3.

24年度第2学年クラス担任会議

24.3

校長

1、 全般

- ・鉄は熱い内に鍛える。(最初が肝心)
- ・担任教員は、高専教育の推進者
- ・卒業を目標に指導する。転科学生の勉学状況に注意
- ・優しさや親身の指導と馴れ合いとは異なる(心をこめた厳しさが必要)。
- ・常識としての「形」を覚えさせる。

2、 担任の心構え

(1) 学生の指導

- ・FD成果の活用。(教師塾:統御→統率)、(教師学:私思考)。
- ・大観小察(学生の目標を技術者に向ける、全般を俯瞰し判断する)
- ・厳しさの奨励(怒りの叱責や心ない一言は、学生の心を傷つける。)
- ・担任は学生の味方。進級にホッと、心が緩むのを見逃さない。
- ・専門科目への取り付きと、過年度未修得単位の処理を指導する。
- ・バイク通学者の指導
- ・留学による英語勉強の真の意義を認識させる。NZ留学の真の意義を伝える。(退学はルール違反)

24.3

平成24年度3年生担任会議資料

校長

1、全般

- ・鉄は熱い内に鍛える。(専門への入り口)
- ・担任教員は、高専教育の推進者
- ・入学者を卒業まで持って行く指導をする。(3年修了後他校編入：なし)
- ・優しさや親身の指導と馴れ合いとは異なる(心をこめた厳しさが必要)。
- ・常識としての「形」を覚えさせる。
- ・優しさや親身の指導と馴れ合いとは異なる(心をこめた厳しさが必要)

2、担任の心構え

(1) 学生指導

- ・FD成果の活用。(教師塾：統御→統率)、(教師学：私思考)。
- ・大観小察(学生の目標を技術者に向ける。全般を俯瞰して判断する。)

24.3

平成24年度4年生担任会議資料

校長

1、全般

- ・大学生、上級生の自覚。(最初が肝心)
- ・担任教員は、高専教育の推進者
- ・優しさや親身の指導と馴れ合いとは異なる(心をこめた厳しさが必要)。
- ・常識としての「形」を覚えさせる。

2、担任の心構え

(1) 学生の指導

- ・FD成果の活用。(教師塾：統御→統率)、(教師学：私思考)。
- ・大観小察(学生の目標を技術者に向ける、全般的な目で判断する)

24.3

平成24年度5年生担任会議資料

校長

1、全般

- ・担任教員は、高専教育の推進者
- ・全員卒業まで持って行く。
- ・優しさや親身の指導と馴れ合いとは異なる(心をこめた厳しさが必要)
- ・常識としての「形」を覚えさせる。

2、担任の心構え

(1) 学生の指導

- ・FD成果の活用。(教師塾：統御→統率)、(教師学：私思考)。
- ・大観小察(学生の目標を技術者に向ける、全般的な目で判断する)
- ・厳しさを込めて面倒を見る、相談相手になる、声を掛ける。
進級した喜びでの、気の緩みを見逃さない。
5年留年も発生している現実を説明

(出典 担任会議資料)

合同教員室一覧

教員室[31・104室]

氏名	担当科目	職名	着任年度
大原 しのぶ	英語、世界事情	一般教科主任、教授	平成8年度着任
大崎 富雄	国語、日本語、倫理	学生主事、教授	平成1年度着任
壽時 廣	外国事情、英語	教授	昭和44年度着任
宇都宮 隆子	英語	准教授	平成23年度着任
宮野 純光	歴史	教務副主事、准教授	平成17年度着任
山口 真史	保健体育	講師	平成21年度着任
山崎 梓	国語	講師	平成19年度着任
ドリーン・ゲイロード	英語	教授	平成9年度着任
イアン・スティーブソン	英語	准教授	平成21年度着任
セラ・フォーブス	英語	講師	平成21年度着任
カリナ・ロベス	英語	講師	平成23年度着任
ルーリー・ネイサン	英語	助教	平成24年度着任
レ・ニュン	英語	助教	平成24年度着任
リー・ノルトン	英語	助教	平成24年度着任

機械工作実験室[31・123室]

氏名	担当科目	職名	着任年度
伊藤 恒平	工業力学、計測制御、機械工学	機械工学学科長、教授	平成18年度着任
小間 徹也	コンピュータ工学、機械設計、機械製図、機械工学	進路指導副主事、講師	平成20年度着任
金井 亮	機械工学、材料力学	准教授、博士(工学)	平成19年度着任
林 道大	機械設計、エレクトロニクス、機械工学、情報処理	准教授、博士(工学)	平成23年度着任

地域連携教育センター[31・205室]

氏名	担当科目	職名	着任年度
香林 利男	電気回路、パワーエレクトロニクス	地域連携主任、教授、工学博士	昭和42年度着任
瀧本 明弘	保健体育	地域連携副主任、教授	平成18年度着任
高橋 文雄	流体力学、応用物理	進路指導主事、教授、工学博士	平成23年度着任
木原 均	微分積分	進路指導副主事、准教授、博士(情報科学)	平成20年度着任

数理教員室[31・125室]

氏名	担当科目	職名	着任年度
原 孝美	物理、化学	教授	平成10年度着任
谷口 航	物理、化学	助教	平成22年度着任
中泉 俊一	基礎数学、線形代数	教授	平成24年度着任
宮田 一郎	応用数学、線形代数	教授	平成24年度着任
松本 昇久	数学特論、微分積分	准教授	平成19年度着任
中谷 亮子	数学	准教授	平成17年度着任

(出典 教員会議資料)

(分析結果とその根拠理由)

学級担任を支援するため、1年生の副担任に学科長の配置や、努めて4年から5年への担任持ち上がり制度があり、年度始めの担任会議や、共用教員室形式を採用し、教員の教育活動を円滑に実施するための、支援体制が機能しているといえる。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

本校の最も特徴的な点は、大学と同じ教育理念を持つことから、学園が運営する教育、研究の支援組織を大学と共用しており、充実した教育研究環境で学生が学べる点だと認識している。

本校の教育活動を運営する体制は、所属学科と所属委員会の2軸で教員を配置しており、組織を横断した構成となっている。これにより各学科と各委員会等の組織間の連携が深まり、「Ⅱ 目的」のための適切な学事運営が行われていると認識している。

(改善を要する点)

CLE²プログラムはグローバル情報工学科を中心に取組成果も上がってきたが、電気電子工学科や機械工学科ではまだグローバル情報工学科に比べてプログラムの推進に温度差があると認識している。今後は全学的な展開により一層の力を入れる必要があると考えている。

学生指導について学級担任に業務が集中している面がある。情報を共有しながらも副担任、教務係、学生係らと効率よく業務分担しながら学生指導を行う必要があると認識し、更なる教員間のコミュニケーションが取りやすい環境づくりを図りたいと考えている。

(3) 基準 2 の自己評価の概要

学科の構成は、本校の目的を基盤としながら、産業構造の変化や中学校の視点からの学科名称の分かり易さなどを考慮し、平成 21 年より現在の電気電子工学科、機械工学科、グローバル情報工学科の3学科の構成である。各学科では、学科の目的と学習・教育目標及び卒業時に身につけるべき学力や資質に沿った教育を実施しており、学科の構成は、本校の目的を達成する上で適切なものとなっている。また、本校の目的を達成するための全学的なセンターとして、地域連携教育センター、創造技術教育研究所を設置している。また学園は本校と大学の学習を支援するために教育支援機構を設置し、大学と同等の教育活動支援、学生の学習活動の支援を行っている。教育支援機構にはライブラリーセンター、夢考房などを設置している。各センターの教育実践目標における位置づけは、地域連携教育センターでは主に教育実践目標の「人間形成」を、創造技術教育研究所、ライブラリーセンター、夢考房などでは主に教育実践目標の「エンジニアとして必要な能力の育成」を担っており、目的を達成する上で適切なものとなっている。

本校では校長を議長とする「学務会議」において、教育活動を円滑に展開するための学務運営とこれに関わる重要事項の審議を行っている。「学務会議」で企画立案された方針を具体的に実行するために「教務委員会」「厚生補導委員会」「進路指導委員会」を設けている。この他、学園には「KTC 教育評価委員会」及び「国際交流委員会」を設け、教育活動全般の自己点検評価や外部点検評価及び派遣留学や海外インターンシップなど国際交流の重要事項を審議している。

一般科目と専門科目は連携したカリキュラム構成となっており、カリキュラムを運営するために学務会議をはじめとした各委員会などが組織され、かつ連携強化を目的とした FD 研修会を行うなど、一般科目と専門科目の教員間、科目間の連携が機能的に行われている。特に、平成 21 年度からは CLE²プログラムの導入により、英語科目と、専門科目の科目間、教員間の連携が深まったと考えている。学級担任を支援するため、1年生の副担任に学科長を配置し、努めて4年から5年への担任持ち上がり制度の導入、共用教員室形式を採用して教員間の連携の円滑化を図るなど、教育活動を円滑に実施するための支援体制を整えている。